

令和6年度
研 究 集 録
第55集

指定地区研究 — 北部（秩父）地区—

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

— 生活の営みに係る見方・考え方を効果的に働かせる指導法の工夫 —

埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動状況

- 1 令和6年度事業
- 2 役員及び運営組織・各部等の活動内容
- 3 総会並びに講演会
- 4 研究指定地区研究の歩み一覧表
- 5 地区別授業研究会
《東部・北埼玉 さいたま市 南部・上尾3市町》
- 6 各部活動報告（研修部 広報部 調査研究部 庶務会計部）
- 7 専門委員会報告
- 8 埼玉県発明創意くふう展 入賞作品
- 9 令和6年度全国大会
- 10 令和6年度埼玉県小学校家庭科教育研究会役員名簿

埼玉県連合教育研究会
埼玉県小学校家庭科教育研究会

指定地区研究 一北部（秩父）地区一

研究主題

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」

— 生活の営みに係る見方・考え方を効果的に働かせる指導法の工夫 —

目 次

あいさつ

埼玉県小学校家庭科教育研究会長	井上 千春 1
秩父市教育委員会教育長	前野 浩二 2
秩父市立影森小学校長	福島 昌彦 3
北部（秩父）地区実施委員長	棚村かおり 3

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由	4
2 研究の全体構想	5

II 研究の視点 6

III 研究の内容

1 視点1 実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫	
(1) よりよい生活を創り出そうとする	
実践的な態度を育成することを重視した指画計画	8
(2) 他学年や他教科等との系統的・横断的な学びのつながりを	
明確にした指導計画	13
2 視点2 主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の工夫	
(1) 主体的・対話的で深い学びと実践活動の明確な位置付け	14
(2) 学び合いやICTの効果的な活用の工夫	17
(3) 見方・考え方を働かせる場面の設定	18
3 視点3 成長が実感できるようにする評価の工夫	
(1) 自己の伸びを実感できる評価の工夫	19
4 視点4 家庭・地域との連携の工夫	
(1) 地域の特色を活かした工夫ある学習活動の設定	21
5 実態調査	22
6 授業の実際	30

IV 研究の成果と課題

1 成果	38
2 課題	38

あ い さ つ

埼玉県小学校家庭科教育研究会
会 長 井 上 千 春

埼玉県小学校家庭科教育研究会の研究集録第55集の発行にあたりまして、ご尽力いただきました関係の皆様には深く感謝申し上げます。また、本研究大会も第55回を迎え、歴史ある埼玉県小学校家庭科教育研究会のたゆみない歩みが、コロナ禍を経てもなお、さらに一歩前進いたしましたことに対して心から御礼申し上げます。

さて、学習指導要領では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」として、家庭科で育成を目指す資質・能力が3つの柱で示されています。その2つめの目標には、日常生活の中から問題を見だし課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど学習過程を通して、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力・判断力・表現等」を育成することにより、課題を解決する力を養うことが明確にされています。

本研究会では研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」と設定しました。そして、研究の視点を①実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫、②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の工夫、③成長を実感できるようにする評価の工夫、④家庭・地域との連携の工夫、という4つの視点から研究を進めました。本日授業公開をする5年生は、伝統的な日常食である米飯とみそ汁の調理の仕方について、体験を通して問題を見出すことができるようにする場面を取り上げました。また、6年生は家族のためのおきの献立を考え、グループで評価・改善を行う授業を行いました。6年生については、紙面発表とさせていただいております。今回の研究を、各学校の授業改善につなげていただけたら幸いです。

本日ここに、研究の成果を発表させていただく機会を得ることができました会場校であります秩父市立影森小学校 福島 昌彦校長先生をはじめ教職員の皆様、実施委員長 棚村かおり校長先生を中心とした北部（秩父）地区の先生方並びに関係の皆様への御協力と御支援に心から感謝申し上げます。

結びに、これまで御指導・御支援いただきました文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 熊谷有紀子先生、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、県立総合教育センター、北部教育事務所、秩父市教育委員会、埼玉県連合教育研究会、埼玉県産業教育振興会、日本教育公務員弘済会埼玉支部をはじめ、関係諸機関の皆様には深く感謝申し上げます。

(川口市立戸塚南小学校長)

あ い さ つ

秩父市教育委員会
教育長 前野 浩二

この度、令和6年度第55回埼玉県小学校家庭科教育研究会が本市において、研究主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」、副題を「生活の営みに係る見方・考え方を効果的に働かせる指導法の工夫～」とし、大勢の皆様にご参加いただき開催されますことに、心よりお祝い申し上げます。また、このような発表の機会をいただいたことに感謝申し上げます。

本市においては、「社会の変化に対応して生き抜く力を身に付ける秩父の教育を推進し、秩父の未来を担う人材を育成する」ことを基本理念とし、「未来の秩父を担う人材の育成と特色ある元気な学校づくり」を推進しております。多様な人々と協働しながら、予測困難で変化の激しい社会を生き抜き、豊かな人生を自らの力で切り拓くことができる資質・能力をもった、未来の秩父を担う子供たちの育成のため、教職員一人一人が、日々の教育活動に取り組んでおります。

さて、子供たちが家庭科を通して学ぶ「家族や家庭」、「衣食住」、「消費や環境」は、人が生きていくために欠かすことができないものです。また、家庭科を通して身に付ける資質能力は、子供自身が自分の生活をよりよくするために必要なものです。そして、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度は、家庭科で身に付けた力を、社会を生き抜く力へと高めていきます。子供たちは授業を通して、自分の生活とじっくり向き合い、豊かで楽しい生活を自ら創り上げるための資質能力を身に付けることが、子供たちのウェルビーイングを実現させることにつながります。このことから、これからの社会を創り上げていく子供たちを育成するために、家庭科が担う役割はとても大きいと感じます。

本研究会の先生方におかれましては、本日の発表を自校の今後の教育活動に生かしていただくことをご期待申し上げます。

結びに、本会を開催するにあたり、本研究会の役員の皆様をはじめ、ご支援ご指導賜りました指導者の皆様にご心よりお礼申し上げますとともに、埼玉県小学校家庭科教育研究会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

あ い さ つ

秩父市立影森小学校長 福島 昌彦

本校を会場として、埼玉県家庭科教育研究会における第55回研究協議会が開催できますことを心より感謝申し上げます。

埼玉県の北西部に位置する秩父市は、市域の約87%は森林で、中心部は周囲に山岳丘陵を眺める盆地を形成しています。四季折々の自然や秩父札所をはじめとした神社仏閣、伝統ある祭り等により観光地として栄えています。また、小昼飯と言われる伝統食やそばづくりなどでも知られています。

本校は、秩父盆地の南西部分の影森地区と山間地域である浦山地区を学区とし、県内でも数少ない青い目の人形「マリー・ルイズ」を所有する歴史ある学校です。また、愛の石の誓いを基盤とした「愛の学校」として愛を大切にすることを推進しています。

本会におけるこれまでの研究成果に学び、研究主題である「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」のもとに、よりよい授業実践となるよう研究を積み重ねてきました。日常生活の中から課題を設定し、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養い、実際の生活や社会の中で生かすことができる力を育むよう取り組んできました。至らぬ点はございますが、皆様にご指導いただき、さらなる授業力を向上させ、家族や地域の人々との関わりを大切にすることを豊かな心と実践力を育ててまいりたいと存じます。

ご指導いただきました埼玉県教育委員会、秩父市教育委員会、埼玉県家庭科教育研究会、秩父地区家庭科教育研究会の先生方に心より感謝申し上げます。

あ い さ つ

北部秩父地区 実施委員長 棚村 かおり

新学習指導要領の全面実施5年目の今年度は、ポストコロナとして家庭科教育の中でも活動が制限されてきた食に関する学習にも目を向け、改めて体験的な活動の充実が各校で工夫と共に図られてきました。このような中実施された、令和5年度の東部（埼玉葛）地区における第54回研究協議会を受け、研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」、副題として「生活の営みに係る見方・考え方を効果的に働かせる指導法の工夫」として研究を推進してまいりました。

研究の視点として①実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫、②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の工夫、③成長が実感できるようにする評価の工夫、④家庭・地域との連携の工夫 の4点とし、先行する素晴らしい研究授業を踏まえながらも、だれもができる指導方法の確立をめざし、研究してまいりました。児童の減少による学校統合の波や働き方改革推進の中での各研修への取組のあり方には困難さもありましたが、本日、秩父市立影森小学校においてその成果を発表できますことに、心から御礼申し上げます。

結びに、本研究の推進にあたり、埼玉県教育委員会、北部教育事務所、秩父市教育委員会の皆様のご指導・ご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

また、秩父市立影森小学校の福島昌彦校長先生をはじめ、教職員の皆様にご多大なるご支援・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

(深谷市立豊里小学校長)

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

研究主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

副 主 題：生活の営みに係る見方・考え方を効果的に働かせる指導法の工夫

はじめに

秩父地区は、埼玉県の西部に位置し、1市4町からなる地区で構成されている。四方を山に囲まれ自然豊かな環境で学区面積は広範囲に及ぶが、小学校数は22校であり、そのうち半数以上の学校が単級または複式という小規模校である。そのため、家庭科主任でありながら家庭科の授業を担当していない、または家庭科を教えたことがないという教員が半数以上いる。このような現状から、本地区では、誰が受け持っても不安感をもつことなく、学習指導要領で求められている家庭科の目標を達成することができ、児童一人一人が自分の生活に生かしたいと思う授業モデルの構築を目指して、日々取り組んでいる。

(1) 児童の実態と指導上の課題

アンケートの結果から、ほぼ9割の児童が「家庭科の授業はとても好き・好き」であり、「家庭科は生活に役立つ」と考えている。祖父母と同居、または近くに居住している割合が高く、古くからの風習に触れる機会も多い。お祭りが盛んな地域であることから、幼少の頃から地域との関わりも強く、「家」や「家庭」、「地域」を大事にする風土が備わっている。反面、食生活に関しては課題を感じる家庭も少なくない。塾や習い事で食べる時間がない、共働きで忙しくバランスの良い夕食を準備する余裕がない等の理由から、外食やファストフードで済ませているケースを多く聞く。

アンケート結果では「家庭科の授業は好きではない・あまり好きではない」と「家庭科は役に立たない」と答えた児童が1割いた。これらの実態から、家庭科の学習を実生活に結び付け、活かしていく体験を通して、生活の営みに係る見方・考え方に着目させ、主体的に学ぶ態度を育成していきたい。

(2) 家庭科で育みたい児童の姿

本研究では、学習指導要領家庭科の内容B衣食住の生活(2)「調理の基礎」(3)「栄養を考えた食事」の学習を通し、食生活への関心を高め、学び合う中で、主体的に生活を工夫する児童の育成を目指している。

指導においては、各題材で育成を目指す資質・能力を踏まえ、問題を見だし、「題材を貫く課題」を設定し、解決していく学習を展開する。その中で、「生活に係る見方・考え方」を働かせ、自身の考えを広げたり、深めたりしながら、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成につなげていく。どうしたらよりよい生活を送ることができるかを考えることは、社会生活を生き抜く力の習得につながる。さらに、それぞれの生活の間

題に気付き、解決していくことにより、生活文化を大切にする態度の育成にもつなげていきたい。学習の過程で、食生活への関心を高め、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、主体的に生活を工夫する児童の育成を目指していく。

2 研究の全体構造

家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを実現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

研究主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

副主題：生活の営みに係る見方・考え方を効果的に働かせる指導法の工夫

目指す児童像

- ・日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている子
- ・自ら生活の中の問題を見だし、課題を設定し解決できる子
- ・家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫し、実践しようとする子

視点1
実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫

- (1) よりよい生活を創り出そうとする実践的な態度を育成することを重視した指導計画
- (2) 他学年や他教科等との系統的・横断的な学びのつながりを明確にした指導計画(カリキュラム・マネジメント)

視点2
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の工夫

- (1) 主体的・対話的で深い学びと実践活動の明確な位置付け
- (2) 学び合いやICTの効果的な活用の工夫
- (3) 見方・考え方を働かせる場面の設定

視点3
成長が実感できるようにする評価の工夫

- (1) 自己の伸びを実感できる評価の工夫

視点4
家庭・地域との連携の工夫

- (1) 地域の特色を活かした工夫ある学習活動の設定

Ⅱ 研究の視点

〈視点1〉実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫

- (1) 手立て①よりよい生活を創り出そうとする実践的な態度を育成することを重視した指導計画

家庭実践・実践報告を指導計画の中に位置づけ、長期休業等に学んだことを実生活で生かせるような指導計画とした。家庭実践や実践報告では、家庭環境に配慮し、家庭実践のみならず、学校での学びをどのように深めていきたいか、友達との学び合いや対話から学んだことをどう活かしていきたいか等に着目し、実践的な態度を育成していく。

さらに2学年間で、食に関する内容・項目をどの題材で重点的に行うか、漏れの無いようチェック表を作成し、系統的に指導できるようにした。小・中5年間の系統表では、小学校で確実に習得させるものや、中学校につなげるものを確認し、円滑に接続できるようにした。

- (2) 手立て②他学年や他教科等との系統的・横断的な学びのつながりを明確にした指導計画(カリキュラム・マネジメント)

家庭科の学習を通して自らの生活をよりよくしていこうと工夫する資質・能力を育てるとともに、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎を培うことが大切である。指導計画を作成する上で、他学年・他教科との関連を洗い出し、系統的・横断的なつながりを明確にして指導することを意識して取り組んだ。5年生においては、米作り(理科、総合的な学習の時間)や飯ごう炊さん(学校行事)、農産物と産地(社会)、日本の伝統と文化「正月料理」(道徳)と関連付けながら指導する。6年生においては、5年生の学びをベースとし、さらに健康な暮らし(社会、保健体育)等とつなげて指導する。

〈視点2〉主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の工夫

- (1) 手立て①主体的・対話的で深い学びと実践活動の明確な位置付け

目指す児童の姿(題材のゴール)を教師が明確に持って指導することが、目指す資質・能力の育成につながると考える。学習過程のどこに『主体的・対話的で深い学び』のそれぞれの視点を入れ込んでいくのか、しっかりとした計画の下、授業を積み重ねていく。児童が主体的に学習に取り組むためには、身近な内容であること、生活経験を基に自らの生活を振り返られること、実生活に活かせそうだと実感できることがポイントとなる。自らの生活を想起し、児童の「なぜだろう?」「どうしたらうまくいくだろう?」「やってみたいな」という思いを大切に、学習意欲を引き出しながら、実践活動につなげていきたい。

(2) 手立て②学び合いや ICT の効果的な活用の工夫

家庭科で学習した知識を概念として捉えさせ、実践に結び付けるには、身をもって感じる事が大切である。友達との対話を通して学び合い、自分事として考える活動が有効である。そこでワークシートやタブレットを使い、グループでの児童同士の対話や児童と教員との対話を通して気付かせ、さらに学びを深め、課題解決につなげていくようにする。

(3) 手立て③見方・考え方を働かせる場面の設定

見方・考え方を働かせて生活をよりよく工夫しようとする児童の姿(題材のゴールの姿)を教員が明確に持ち、学習過程の中で児童から出てきたキーワード(見方・考え方を働かせる種)を教員が拾い、学習課題を児童の言葉で設定していく。「生活をよりよくしていくには？」という視点で物事を捉え、思考させていくことの積み重ねが、児童が自ら見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶ態度につながると考える。児童の言葉や気付きを丁寧に扱い、キーワード(見方・考え方を働かせる種)となる言葉を広げ、考え、話し合う視点になるような具体的な場面設定を意図して行った。

〈視点3〉 成長が実感できるようにする評価の工夫

(1) 手立て 自己の伸びを実感できる評価の工夫

課題の解決に向けて取り組んだことや工夫したことについて、振り返りの視点を適切に示すことで、プラスの自己評価につなげていく。また、個人・ペア・グループ等の学習形態を工夫しながら効果的に授業に組み入れることで、自らの学習を評価・改善する機会を設ける。それをもとに、自分の生活と今日の授業がつながっていると実感することができ、家庭での実践につながると考える。各過程における児童の学びをワークシートの記述や行動観察から見取り、評価につなげるようにする。

〈視点4〉 家庭・地域との連携の工夫

(1) 手立て 地域の特徴を活かした工夫ある学習活動の設定

地域との連携を基に学習活動を工夫している。米作り農家との連携では、種まきを始めとして、田植え、刈り取り、脱穀等の体験を行った。

市内で生産されている「太田産米」は給食にも取り入れられており、児童にとっても身近である。周りに畑も多く、保護者や祖父母が作る地場産の野菜に触れている児童も多い。地域の特産物を理解し、地域の良さに関心を持ちながら、栄養バランスのとれた米飯やみそ汁の調理を実践させることで、地域とのつながりを意識した学習を展開する。

Ⅲ 研究の内容

1 視点1 実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫

(1) よりよい生活を創り出そうとする実践的な態度を育成することを重視した指導計画

小学校家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指している。そこで家庭科の学習では、実践的・体験的な活動を通して繰り返し学習したり日常生活で活用したりして知識及び技能の定着を図る必要がある。それを家庭生活に生かし、継続的に実践できるようにするためには、家族や地域の人々と協力し、よりよい生活を創り出そうと工夫し実践する喜びを味わうことができる「A(4)生活の課題と実践」を計画し長期休業中に家庭で実践し、その後それぞれの実践を振り返り、工夫、改善に取り組みさせる指導計画(資料1)の作成をした。さらに、全ての指導事項が網羅され、実践化に結び付けられるよう、「内容・項目・事項チェック表」5年生版(資料2)6年生版(資料3)を作成し、学習内容の定着を確認した。さらに、中学校での学習への効果的な接続について指導内容の確認を行った。(資料4)

月	第5学年(60時間)	内容	月	第6学年(55時間)	内容
4	家庭科で生活をよりよく変えていこう (1)～ガイダンス～ 私の生活、大発見!(4)	A(1)ア	4	見つめてみよう生活時間(2)	A(2)アイ
5		A(2)アイ B(2)ア(イ)	5	朝食から健康な1日の生活を(10)	B(1)ア B(2)ア(イ)(イ) (ウ)(エ) B(3)ア(イ)(イ) B(2)イ
6	ゆでる調理でおいしさ発見(6)	B(2)ア(イ) (イ)(ウ)(エ) B(2)イ	6	夏をすずしくさわやかに(8)	B(6)ア(イ) B(4)ア(イ)(イ) B(6)イ B(4)イ
7	ひと針に心をこめて(9)	B(4)ア(イ) B(6)ア(イ)(イ) B(5)イ	7		
8			8		
9	持続可能な社会へ 物やお金の使い方(6)	C(1)ア(イ) (イ)イ C(2)ア	9	思いを形にして生活を豊かに(14)	B(5)ア(イ)(イ) B(5)イ
10	食べて元気!ご飯とみそ汁(10)	B(1)ア B(2)ア(イ) (イ)(ウ)(エ)	10	まかせてね 今日の食事(10)	B(3)ア(イ)(イ) B(2)ア(イ)(イ) (イ)(ウ) C(1)ア(イ)(イ) (2)イ B(1)イ
11			11		
12	物を生かして住みやすく(7)	B(6)ア(イ) B(6)イ C(2)ア	12	生活を変えるチャンス(3)	A(4)ア
	気持ちがあつなげる家族の時間(2)	A(3)ア(イ) A(3)イ	1	冬を明るく暖かく(5)	B(6)ア(イ)(イ) B(4)ア(イ)(イ)
	生活を変えるチャンス(3)	A(4)ア	2	あなたは家庭や地域の宝物(2)	A(3)ア(イ)(イ) C(2)ア(イ)(イ)
1	ミシンにトライ!手作りで楽しい生活(11)	B(5)ア(イ)(イ) B(5)イ	3	これからの生活に向けて (1)～2年間のまとめ～	A(1)ア
2					
3	5年生のまとめ(1)	A(1)ア			

資料1 実践的な態度を育成することを重視した指導計画例

内容 項目 事項 題材名	A				B						C		時間 数			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)		(3)	(4)	(5)	(6)	(1)		(2)		
	ア	ア	イ	ア(ア)ア(イ)	イ	ア	ア	イ	ア(ア)ア(イ)ア(ウ)	イ	ア(ア)ア(イ)	イ		ア(ア)ア(イ)	イ	
家庭科で生活をよりよく変えていこう															1	
ガイダンス	○														1	
私の生活、大発見！															4	
どのような生活をしているのかな	○														1	
自分にできそうな家庭の仕事をみつげよう	○	○					○								2	
できることを増やしていこう		○													1	
ゆでる調理でおいしさ発見															6	
調理の目的や手順を考えよう							○								1	
ゆでる調理をしよう							○	○	○	○					4	
ゆでる調理の計画を立てて実践しよう										○					1	
ひと針に心をこめて															9	
針と糸を使ってできること											○				1	
手ぬいりにトライ！										○	○	○			7	
手ぬいのよさを生活に生かそう											○				1	
持続可能な社会へ 物やお金の使い方															6	
よりよく選ぶために考えよう												○			1	
買い物について考えよう												○	○	○	4	
持続可能な社会をつくらう														○	1	
食べて元気！ご飯とみそ汁															10	
毎日の食事を見つめよう						○									1	
ご飯とみそ汁を調理して、食事について考えよう							○	○	○	○					8	
食生活を工夫しよう									○						1	
物を生かして住みやすく															7	
身の回りや生活の場を見つめよう												○			1	
身の回りをきれいにしよう												○	○		5	
物を生かして快適に生活しよう												○		○	1	
気持ちがあがる家族の時間															2	
家族とふれ合う時間を見つけよう			○												0.5	
我が家族団らんタイムを計画しよう			○	○											1	
団らんを生活の中に生かそう				○											0.5	
生活を変えるチャンス！				○											3	
ミシンにトライ！手作りでおしゃれな生活															11	
ミシンぬいのよさを見つけよう											○	○			1	
ミシンにトライ！											○	○			9	
世界に一つだけの作品を楽しく使おう												○			1	
5年生のまとめ															1	
まとめ	○														1	
★5学年 内容項目・事項	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	60

資料2 内容・項目・事項チェック表(5年生)

	(小学校) 第5学年	(小学校) 第6学年
A 家族・家庭生活	<p>A(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ、家族との協力</p> <p>家族や地域の人々との協力、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築を視点として考えられるようにする。</p> <p>A(2) 家庭生活と仕事 ア 家庭の仕事と生活時間 イ 家庭の仕事の計画と工夫</p> <p>A(3) 家族や地域の人々との関わり ア(ア) 家族との触れ合いや団らん イ 家族や地域の人々との関わりの工夫</p> <p>A(4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 日常生活についての課題と計画、実践、評価</p>	<p>A(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ、家族との協力</p> <p>A(2) 家庭生活と仕事 ア 家庭の仕事と生活時間 イ 家庭の仕事の計画と工夫</p> <p>A(3)ア(イ) 地域の人々との関わり</p> <p>A(3)イ 家族や地域の人々との関わりの工夫</p> <p>A(4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 日常生活についての課題と計画、実践、評価</p> <p>幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりについても扱う。(2)または(3)「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」で学習した内容と関連を図り、2学年で一つ又は二つの課題を設定できるように配慮する。</p>
		<p>B(6)と関連して音を扱う。</p>
B 衣食住の生活	<p>B(1) 食事の役割 ア 食事の役割と食事の大切さ、日常の食事の仕方</p> <p>B(2) 調理の基礎 ア(ア) 材料の分量や手順、調理計画 (イ) 用具や食器の安全で衛生的な取扱い、加熱用調理器具の安全な取扱い (ウ) 材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け (エ) 材料に適したゆで方、いため方 (オ) 伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方</p> <p>青菜をゆでる調理を扱う。 和食の基本となるだしの役割にふれる。</p> <p>B(2)イ おいしく食べるための調理計画及び調理の工夫</p> <p>五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱う。 小学校では、1食分の献立を考える。</p> <p>B(3) 栄養を考えた食事 ア(ア) 体に必要な栄養素の種類と働き (イ) 食品の栄養的な特徴と組合せ</p> <p>B(4) 衣服の着用と手入れ ア(ア) 衣服の主な働き、日常着の快適な着方 (イ) 日常着の手入れ、ボタン付け及び洗濯の仕方 イ 日常着の快適な着方や手入れの工夫</p> <p>B(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア(ア) 製作に必要な材料や手順、製作計画 (イ) 手縫いやミシン縫いによる縫い方、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫</p> <p>暑さ・寒さについては、(4)ア(ア)の日常着の快適な着方と関連を図る。</p> <p>B(6) 快適な住まい方 ア(ア) 住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方 イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方の工夫</p>	<p>B(1)ア 食事の役割と食事の大切さ、日常の食事の仕方 イ 楽しく食べるための食事の仕方の工夫</p> <p>B(2)調理の基礎 ア(ア) 材料の分量や手順、調理計画 (イ) 用具や食器の安全で衛生的な取扱い、加熱用調理器具の安全な取扱い (ウ) 材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け (エ) 材料に適したゆで方、いため方</p> <p>じゃがいもを取り扱う。</p> <p>調理計画においては、一人で調理する場合の計画についても考えることができるようにする。</p> <p>B(2)イ おいしく食べるための調理計画及び調理の工夫</p> <p>B(3) 栄養を考えた食事 ア(イ) 食品と栄養的な特徴と組合せ (ウ) 献立を構成する要素、献立作成 イ 1食分の献立の工夫</p> <p>・手洗いを中心として学習する。・洗剤については、量を中心に扱う。</p> <p>B(4) 衣服の着用と手入れ ア(ア) 衣服の主な働き、日常着の快適な着方 (イ) 日常着の手入れ、ボタン付け及び洗濯の仕方 イ 日常着の快適な着方や手入れの工夫</p> <p>B(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア(ア) 製作に必要な材料や手順、製作計画 (イ) 手縫いやミシン縫いによる縫い方、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫</p> <p>袋などの製作(ゆとりや縫いしろの必要性)</p> <p>B(6) 快適な住まい方 ア(ア) 住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方 (イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方 イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方の工夫</p> <p>音を取り上げる。</p>
		<p>「買い物の仕組みや消費者の役割」を新設</p>
C 消費生活・環境	<p>C(1) 物や金銭の使い方と買物 ア(ア) 買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さ、計画的な使い方 (イ) 身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理 イ 身近な物の選び方、買い方の工夫</p> <p>C(2) 環境に配慮した生活 ア 身近な環境との関わり、物の使い方 イ 環境に配慮した物の使い方の工夫</p>	<p>C(1) 物や金銭の使い方と買物 ア(イ) 身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理 イ 身近な物の選び方、買い方の工夫</p> <p>売買契約の基礎について触れる。</p>
		<p>「買い物の仕組みや消費者の役割」を新設</p>

資料4 小・中の系統性を重視し、5年間を見通した指導内容の整理

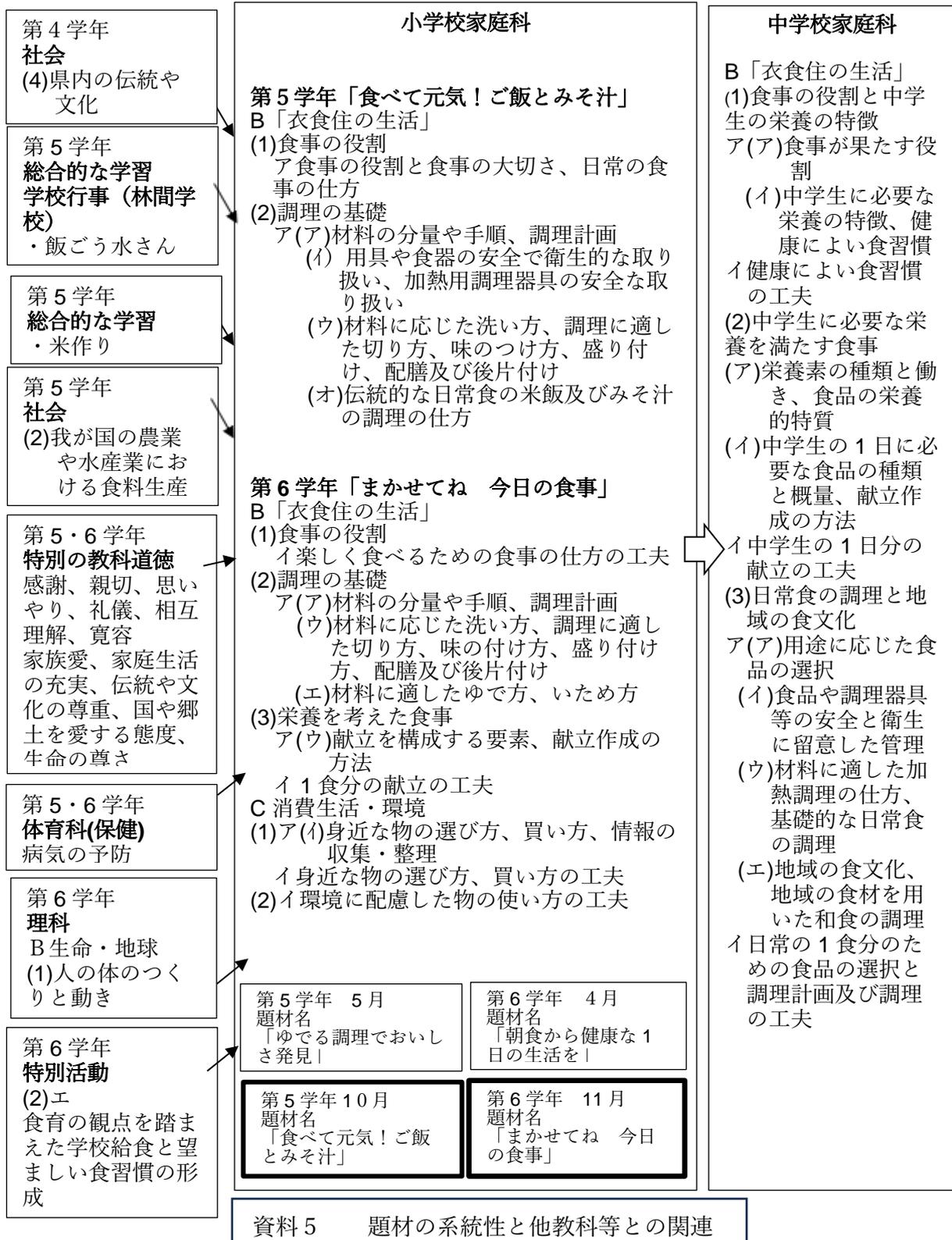
(中学校) 第1学年	(中学校) 第2学年	(中学校) 第3学年	
<p>A(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と家庭生活との関わり 家族・家庭の基本的な機能、家庭や地域の人々との協力・協働</p> <p>「B 衣食住の生活」や「C 消費生活・環境」との関連を図る。</p>	<p>直接的な体験ができるよう留意する。 （「赤ちゃん・幼児触れ合い体験」の実施）</p> <p>高齢者の身体の特徴や立ち上がりや歩行などの介助の方法について扱い、理解できるようにする。</p>	<p>A(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家庭や地域の人々との協力・協働</p> <p>A(2) 幼児の生活と家族 ア(ア) 幼児の発達と生活の特徴、家族の役割 イ 幼児の遊びの意義、幼児との関わり方</p> <p>A(2) 幼児の生活と家族 イ 幼児との関わり方の工夫</p> <p>A(3) 家族・家庭や地域との関わり ア(ア) 家族の協力和家族関係 イ 家庭生活と地域との関わり、高齢者との関わり方</p> <p>A(3)イ 家族関係をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫</p>	A 家族・家庭生活
<p>B(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 ア(ア) 食事が果たす役割 イ 中学生の栄養の特徴、健康によい食習慣 イ 健康によい食習慣の工夫</p> <p>B(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 ア(ア) 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 イ 中学生の1日に必要な食品の種類と概量、1日分の献立作成 イ 中学生の1日分の献立の工夫</p> <p>B(3) 日常食の調理と地域の食文化 ア(ア) 用途に応じた食品の選択 イ 食品や調理用具等の安全・衛生に留意した管理 ウ 材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理</p> <p>B(4) 衣服の選択と手入れ ア(ア) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の適切な選択 イ 衣服の計画的な活用、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ イ 日常着の選択や手入れの工夫</p> <p>衣服と社会生活との関わりでは、日本の伝統的な衣服である和服について触れるようにする。</p>	<p>食事を共にする意義や食文化の継承についても扱う。</p> <p>B(3) 日常食の調理と地域の食文化 ア(ア) 用途に応じた食品の選択 イ 食品や調理用具等の安全・衛生に留意した管理 ウ 材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理 エ 地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理</p> <p>B(3)イ 日常の1食分の調理及び食品の選択や調理の仕方、調理計画の工夫</p> <p>B(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア 製作する物に適した材料や縫い方 イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画、製作</p> <p>B(6) 住居の機能と安全な住まい方 ア(ア) 住居の基本的な機能 イ 家族の安全を考えた住空間の整え方</p> <p>B(7) 衣食住の生活についての課題と実践</p>	<p>B(3) 日常食の調理と地域の食文化 ア(ウ) 材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理 イ 日常の1食分の調理及び食品の選択や調理の仕方、調理計画の工夫</p> <p>中学校では、魚、肉を扱う。</p> <p>・小学校での「ゆでる、いためる」調理に加え、中学校では、「煮る、焼く、蒸す等」を扱う。</p> <p>日常食べられている和食として、だしと地域又は季節の食材を用いた煮物又は汁物を取り上げる。</p> <p>衣服等の再利用の方法についても触れる。</p> <p>「住居の基本的な機能」の一部や「室内の空気調節」については、小学校でも扱う。「音と生活との関わり」については、小学校で扱う。</p> <p>他の内容との関連を図り、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮する。</p>	B 衣食住の生活
<p>C(1) 金銭の管理と購入 ア(ア) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理</p> <p>C(2) 消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任、消費生活が環境や社会に及ぼす影響 イ 自立した消費者としての消費行動の工夫</p>	<p>C(1) 金銭の管理と購入 ア(ア) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理 イ 売買契約の仕組み、消費者被害、選択に必要な情報の収集・整理</p> <p>C(1)イ 情報を活用した物資・サービスの購入の工夫</p> <p>B(3)における食品の選択、B(5)における衣服等の再利用の方法の学習などとの関連を図るようにする。</p>	<p>三者間契約を取り上げる。</p>	C 消費生活・環境

※中学校のA(4)、B(7)、C(3)については、3学年間で1以上を選択し、履修させる。(ここではBを選択したものとする)

※図中の吹き出しについては、 は新設の内容、 は配慮事項を表している。

(2) 他学年や他教科等との系統的・横断的な学びのつながりを明確にした指導計画

題材の構成に当たっては、各内容の相互の関連を整理し、学習の効果を高めるよう他教科等との関連を明確にし、実践した。また、中学校の学習内容との系統性を確認し、見通しをもってねらいを明らかにした指導の実践を図った。年間指導計画作成においては、児童の発達段階や活動内容の経験、実態等を把握し、段階的・系統的に配列を工夫し、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成が図れるよう工夫した。(資料5)



視点2 主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の工夫

(1) 主体的・対話的で深い学びと実践活動の明確な位置付け

学習指導要領解説家庭編では、目指す資質・能力を育成するためにより明確な学習過程例が示されている。題材によってさらに学習過程を工夫し、目指す資質・能力を明確にし、問題解決的な学習の中の課題設定の工夫や課題を解決する中で学び合いを深める工夫、自分の学習を振り返り学習を深める工夫に焦点を当て、研究することで、主体的・対話的で深い学びを実現させることとした。この指導計画の中に、主体的な学び、対話的な学び、深い学びを明確に位置付ける。

【学習過程】



		生活の課題発見	解決方法の検討と計画	課題解決に向けた実践活動	実践活動の評価・改善	家庭・地域での実践	
		既に習った生活課題を、問題解決の基礎として活用する。	生活課題を解決するための知識・技能を習得し、活用する。	生活課題を解決するための知識・技能を習得し、活用する。	生活課題を解決するための知識・技能を習得し、活用する。	生活課題を解決するための知識・技能を習得し、活用する。	
目指す資質・能力と学習評価の場面例	知識	生活課題を解決するための根拠となる知識の習得		生活の営みに係る見方・考え方を踏まえた活用できる知識の習得			
	技能	生活課題を解決するための技能の習得		実生活に活用できる技能の習得			
	思考力	生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力					
	判断力	生活課題について多面的に捉え、解決策を構想する力					
	表現力	実習や観察・実験の結果等について、考察したことを表現する力					
		他者と意見交流し、実践等について評価・改善する力					
	学びに向かう態度	<ul style="list-style-type: none"> ○家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 ○生活を楽しみ、味わい、豊かさを創造しようとする態度 ○日本の生活文化を大切にし、継承・伝承しようとする態度 					

学習過程の中で、主体的・対話的で深い学びを明確に位置付けた授業デザインを行った。

第5学年「食べて元気！ ご飯とみそ汁」



第5学年	日本の伝統的な日常食である米飯やみそ汁の調理から課題を設定する	これまで学習した知識を活用し、解決方法を検討する	解決の計画を立てる	生活に関わる能力を交流し、活用し、低学年など	実践した結果を評価する	改善策を家庭で実践する
共に生きる地域での生活	<p>主 ご飯とみそ汁の日常食を見つめ、問題点を見つけ、題材を貫く課題を立てる。① 「おいしいみそ汁とご飯のヒミツは何だろうか」</p>	<p>役の役割、日常の食事の仕方、食事の調理する。②</p> <p>米飯とみそ汁の調理とそその仕方をとに解すもに適切にできる。③ ～⑥</p>	<p>主 学習の見通しをもち、おいしいご飯とみそ汁を作るための学習計画及び個の課題を立てる。④</p>		<p>主 おいしいご飯とみそ汁の家庭実践計画を立てる。⑨</p>	<p>☆ 普段食べているみそ汁とご飯について見直す。</p>
対話的な学び		<p>調理に必要な材料の分量や手順がわかりやすいように理解する。③～⑥</p> <p>材料に合わせた洗い方、調理の仕方、盛り付け方、配膳について理解し、同時に解す。③～⑥</p>	<p>対 ご飯とみそ汁の調理や観察を通して、おいしいご飯とみそ汁のヒミツを話し合う。③～⑥</p>		<p>対 おいしいご飯とみそ汁の家庭実践計画をグループで発表し評価・改善する。⑩</p>	<p>☆ 家庭で実践するよさを味わう。</p> <p>☆ 和食の良さや伝統食を大事にしていく大切さを考える。</p>
深い学び			<p>深 個の課題を解決するために学習したことをもとに、おいしいご飯とみそ汁づくりを工夫する。⑨</p>		<p>深 日本の伝統食であるご飯とみそ汁の学習を通して、これからの食生活について新たな課題を考える。⑩</p>	<p>☆ 健康な生活についてこらからの食生活について考える。</p>

※ ○の数字は、本時の時間を表す。

第6学年「こんだてを工夫して ～家族の健康を考えた食事作り～」



第6学年	生活の課題発見 毎日の食事を見つめ、 問題を出し合う中から 課題を見出し、題材 を貫く課題を設定する	解決方法の検討 生活に関わる能 知識及び技、解 習得し、検 方法を検討 する	課題解決に 見通し調 理計 画を立て る	実践活動の 生活に関わ る知識及び 技能を活用 して、調理 実習、交流 活動など を行う	実践活動の 家族のため に1献立を たて、お かずの 家庭実践 し、計画 や評価 する	結果を改善 発表し、 策を 検討 する	家庭・ 地域 での 実践 改善策を 実践する
主体的な学び こんだてを工夫して	<p>主 毎日の食事を見つめ、家族のために栄養を考えた食事作りの課題を立てる。①</p> <p>「家族のためのとおきの食事を作るためにはどんな工夫が必要だろうか。」</p>	<p>1 食分の栄養のよさを理解する。②</p> <p>2 材料の分量や手順がわかりやすい計画を立てる。④⑦</p>	<p>主 調理実習での課題を確認し、栄養バランスのよい献立、環境に配慮した調理、買い物の仕方の学習計画を立てる。④～⑦</p>		<p>主 家族のためのおきの献立の工夫を発表し合い、評価・改善する。⑩</p>		<p>☆ 家族の食事の用意や食事を食べるの楽しさや味を味わう</p> <p>☆ 家庭での実践しやすさや味を味わう</p>
対話的な学び 家族の健康を考えた食事作り	 <p>材料に合ったゆで方、炒め方を理解する。④</p> <p>身近な物の買い方を理解し、必要なものを集める。⑥⑦</p>	<p>環境に配慮した調理の仕方などについて理解している。⑧⑨</p>	<p>対 家族のために工夫したおかずや環境に配慮した調理実習を相互評価し、アドバイスし合う。⑧⑨</p>		<p>対 家族のための食事作りの工夫について分かりやすく表現している。⑩</p> <p>対 家族のための食事作りの計画や楽しく食事する工夫についてよかった点や改善点等を話合う。⑩</p>		<p>☆ 栄養バランスを考えたおきの食事を作る</p> <p>☆ 食事の味、健康な生活を送る</p>
深い学び	 <p>日常の食事の大切さや食事の仕方について理解している。⑧⑨⑩</p>		<p>深 家族の健康を考えた献立や環境を考えた調理、楽しい食事の仕方について考え工夫する。⑥～⑩</p>		<p>深 健康な食生活にするための実践への意欲をもち、新たな課題を考える。⑩</p>		<p>☆ 食事の味、健康な生活を送る</p> <p>☆ 作りやすい、健康的な生活を送る</p>

※ ○の数字は、本時の時間を表す

(2) 学び合いやICTの効果的な活用の工夫

児童は1人1台タブレット端末を様々な教科で日常的に活用している。必要に応じて検索したり、自分の考えをまとめたり、お互いの考えを共有し合う場面や発表したりするときなどにも効果的に使われている。

第5学年「食べて元気！ ご飯とみそ汁」では、ご飯とみそ汁をおいしく作るヒミツについて調べたり、調理の過程を動画に撮って見合ったり、家庭で実践したことを写真や文で記録して発表するなどしてきた。また、地域で使われている味噌の原料（借金なし大豆）について調べたことをスライドにまとめたり、家族にインタビューしたことを記録しておいたり、多様な場面で活用している。

第6学年「まかせてね 今日の食事」では、バランスのよい食事にするために食品に含まれる栄養素や献立の作り方についてICTを活用した。また、家庭での実践を児童一人一人が工夫してスライドにまとめ、料理の写真や家族の感想、もう少し工夫したいところなどについて発表した。タブレットを使うことで、発表が苦手な児童も自分の考えを伝えやすくなるようであった。また、教師が児童の考えを集約し、食材や家族への思いなどが共通している児童のグループを作って見合ったり、児童が自由に見られるようクラスルームに載せたりして共有することで、その後の児童の家庭での実践意欲につなげることができた。



考えの共有、アドバイス



タブレットを使った調べ学習

☆夏休み宿題☆ オリジナルゆで野菜サラダ作り
いろいろな野菜を取り入れてつくってみましょう。ドレッシング
(P23のソースの工夫を参考に)も教科書を見て作ってみよう！
2組 名前 井島想翔

写真またはイラスト
[Image of a bowl of vegetable salad]

☆工夫したところ&作ってみたいの感想
んじんのあつさをどれくらいにすればいいのかわかんなかったからうすく切ってみた。ブロッコリーを切るの大変だった。

☆お家の人からの感想（お家の人に聞いてみよう！）
野菜を切るのはあぶんなしかかったですが、上手に切りゆでることができました。みなでおいしくいただきました！
彩りもよく、おいしそうなおサラダができましたね！！

にんじんのあつさをどれくらいにすればいいのかわからなかったからうすく切ってみた。

☆夏休み宿題☆ オリジナルゆで野菜サラダ作り
いろいろな野菜を取り入れてつくってみましょう。ドレッシング
(P23のソースの工夫を参考に)も教科書を見て作ってみよう！
組 名前 千島紗雪

写真またはイラスト
[Image of vegetable salad and dressing ingredients]

☆工夫したところ&作ってみたいの感想
作ってみたらとても大変でした。
ほうちょうで切るものがかたかったりして大変でした。ソースはケイリョウスプーで、計るのが大変でした。もりつけたりソースをつけて食べたらとてもおいしかったです。
☆お家の人からの感想（お家の人に聞いてみよう！）
たくさん野菜を切ってゆでく大変だったけどがんばって出来ました。ドレッシングをつけて食べたらおいしかったです。
一生懸命作って様子がよく伝わります。ドレッシングの種類も多くて美味しそうでした。

ほうちょうで切るのがかたくて大変でした。もりつけたりソースをつけて食べたりしたらとてもおいしかったです。

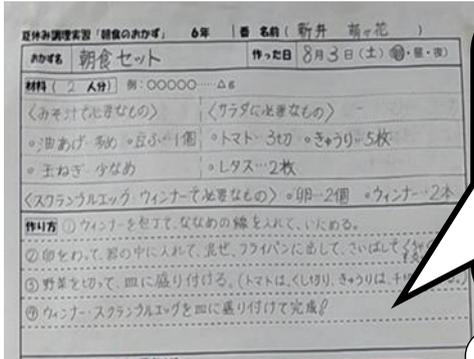
夏休みの宿題で、「オリジナルゆで野菜づくり」に取り組んだ。写真またはイラスト、工夫したところ、感想、家の人からの言葉をタブレット上のワークシートにまとめて、児童同士で見合った。

(3) 見方・考え方を働かせる場面の設定

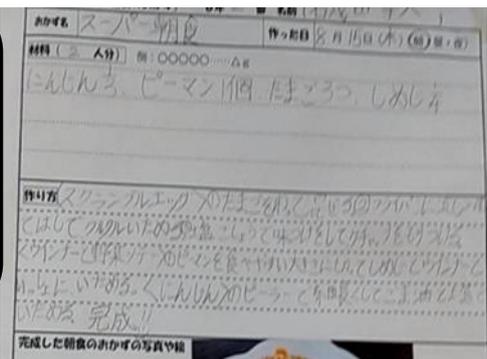
家庭科における「生活の営みに係る見方・考え方」とは、生活をよりよくしようとする中核的概念として捉える。家族や家庭、衣食住、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫していく態度を育成することが大切である。

本研究では、それぞれの場面において児童が見方・考え方を働かせることのできる種を授業の中に組み込んでいくことが有効であると考えた。教師が題材のゴールの児童の姿を明確にもち、学習過程の中で子供から出てきたキーワード（見方・考え方を働かせる種）となる言葉をしっかり拾って児童に返していく。「生活をよりよくしていく」という視点で物事を捉え、思考を深め、自分の考えや行動を再確認したり、友達と深め合ったりすることを積み重ね、児童自ら見方・考え方を働かせながら学習を進めていくことにつなげていく。特に、全体で交流し学び合う場面である「生活の課題発見」「解決方法の検討と計画」「実践活動の評価・改善の場面」では、キーワード（見方・考え方を働かせる種）を広げて整理し、焦点化できるようにした。

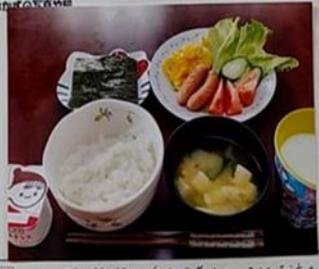
例えば第5学年「食べて元気！ ご飯とみそ汁」では、「健康」「家族や地域の人々との協力」「伝統的な生活文化」という見方・考え方に視点を当て、自分達にできることは何かを考え、児童から出てきた言葉を広げ、スライドなどを活用して共有できるようにした。



＜朝食セット＞
～児童の感想～
おかずの種類を自分で考え、おみそ汁もプラスして作ることができました。これからも料理が上手になれるように工夫して作ってみたいです。



＜スーパー朝食＞
～保護者の言葉～
わくわくしながら朝食を作りました。汗をかきながら作りましたが、お母さんのおかげで美味しくできました。これからも料理が上手になれるように、工夫して作ってみたいです。



朝食の献立を考えて家で実践し、振り返りシートにまとめて共有した。



児童の感想には、自分の生活をよりよくしようとする言葉が書かれていたり、家族への感謝の気持ちを伝えられたりしていた。

視点3 成長が実感できるようにする評価の工夫

(1) 自己の伸びを実感できる評価の工夫

家庭科の学習を通して自己の成長に気付くことで、児童が主体的に学ぼうとする意欲を高めることができる。各題材の学習を通して、「何ができるようになるのか」「何がわかるようになるのか」等、児童が見通しを持つことで、目的意識が明確になり、主体的に学習に取り組むことができるようになると思う。

またワークシートでは、学習を振り返り、プラスの自己評価につなげていく。記述や行動観察から児童の学びを見取り、評価につなげ、さらにプラスの支援・言葉がけにつなげることとした。評価においては、どのような記述があったら、どう評価するのかの基準を教師が事前にもち、学びを適切に見取り支援にもつなげられるようにした。

実践1 「食べて元気！ ご飯とみそ汁」第5学年（第6時）

「思考・判断・表現」の評価規準②

みそ汁の調理計画や調理の仕方について考え、工夫している。

（ワークシート）

みそ汁の実や調理の仕方を工夫し、調理計画を立てる場面で評価する。家族のために作るおいしいみそ汁の実の組合せや切り方、みその扱いを記述した工夫点やその理由から評価する。

<Aさんの計画> （「おおむね満足できる」状況（B））

実の切り方を同じサイズに切り、入れる順や火加減に気をつけ柔らかくなりすぎないようにする。みそを入れてからは沸騰させないように注意する。

※学習したことを実践にどう生かすか具体的に記述していることから（B）と判断した。

<Bさんの計画> （「十分満足できる」状況（A））

出来上がりを考えて切り方も材料で同じ大きさにして、火が通りにくい実から入れる。みそは、だまにならないようにだし汁で溶かしてからなべに入れ、香りを損なわないように沸騰させないようにする。家でやっているようにねぎは小口切りにして最後に入れ、香りを損なわないようにする。

※学習したことを実践にどう生かすか具体的に記述しており、家でのみそ汁の作り方を参考にしたり、なぜそのようにするのも記述したりしていることから（A）と判断した。

<C>：「努力を要する」と判断された児童への指導・支援）

- ・実の切り方やみその扱い方を図や写真をもとに考えさせる。
- ・クラスのほかの児童の記述を参考にできるように紹介する。

実践2 「まかせてね 今日の食事」 第6学年（第2～9時）

「思考・判断・表現」の評価規準②

1 食分の献立の栄養のバランスや買い物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について考え、工夫している。（ワークシート）

「思考・判断・表現」の評価基準②は、第2時から第9時に、話し合いの場面等で友達の意見を聞いて栄養や環境を考えて工夫することを記述する場面で評価する。課題に向けた考え、表現を丁寧に見取りアドバイスすることや学習の振り返りを行うことで児童自身が自分の成長を実感できると考えた。

<Cさんの振り返り> （「おおむね満足できる」状況（B））

栄養のバランスを考えた献立を工夫する。特に野菜を多くとれるように工夫したい。友達の考えを参考にして、自分も家にあるものを使った献立を考える。おじいちゃんの作った野菜を使って工夫すると家族も喜ぶと思う。買い物の学習では、材料を無駄にしない買い方を工夫してたくさん買いすぎないようにする。

※学習したことや友達の発表や話し合いの中で、自分の家庭でできる工夫を記述していることから（B）と判断した。

<Dさんの振り返り> （「十分満足できる」状況（A））

ゆでたり、いためたり等のこれまでの学習を生かして、栄養のバランスやいろいろ、家族の好みも考えて、献立を工夫する。学校での調理実習や買い物の授業で友達の発表を聞いて、家族の健康、環境に優しい調理という視点から栄養のバランス、火加減の調整を細かくすることや水を無駄にしない洗い方、材料を無駄にしない買い方や使い方を工夫する。

※学習したことや友達の発表や話し合いの中で、健康、環境という視点からどう工夫するかを考えていることから（A）と判断した。

<C>：「努力を要する」と判断された児童への指導・支援

- ・ 友達のアドバイスを参考にさせ、内容を一緒に確認する。
- ・ 食品のグループ分け（6つの食品群）で栄養バランスを確認させる。



視点4 家庭・地域との連携の工夫

家庭科の学習を通して身に付ける知識及び技能などは、繰り返して学習したり日常生活で活用したりして定着を図ることができる。学習したことを家庭生活に活かし、継続的に実践できるようにするためには、家庭・地域との連携を積極的に図る必要があると考える。

(1) 地域の特徴を活かした工夫ある学習活動の設定

秩父市では太田地区で作られている米を給食に使用している。近年ではカレーに合う米「華麗舞」を使うこともあり、児童にも好評である。また中学生が考えたメニューや、地域の食材で作る「ふるさと給食」の取組なども行われている。総合的な学習の時間では、米作り農家の協力を得て、種まきから田植え、刈り取り、脱穀などの活動も行っている。

祖父母との同居や近隣に住んでいる児童も多く、また、野菜を育てている家庭も多いため、献立を考える上で野菜や味噌などは身近な食材である。地域の特産物を理解し、地域の良さに関心を持ちながら家庭科の学習を進めることができる。野菜などを作ってくれた人の顔が見えることで、そうした人たちにおいしい食事を作って食べてもらいたい、食材を無駄にせず、残さず食べたいという気持ちをもたせ、食育につなげていくこともできた。



地域の人に教えてもらい、田植え、稲刈りの活動

12	天	ごはん	牛乳	コロッケ、ポテトサラダ、マヨネーズ	200g	200g	200g	200g	642	29.0
13	水	ちゅうめん	牛乳	揚げそば、お味噌汁、お漬物	200g	200g	200g	200g	649	27.1
14	木	ごはん	牛乳	カレー、お味噌汁、お漬物	200g	200g	200g	200g	620	25.9
15	金	ココア シュークリーム	牛乳	シュークリーム、お菓子	200g	200g	200g	200g	638	24.2
18	月	おにぎり お味噌汁	牛乳	おにぎり、お味噌汁	200g	200g	200g	200g	631	22.1
19	火	ピラフ	牛乳	ピラフ、お菓子	200g	200g	200g	200g	641	25.8
20	水	ツイストパン	牛乳	ツイストパン、お菓子	200g	200g	200g	200g	630	28.8

※地産地消、季節の食材の活用には、地産地消の食材を積極的に活用しています。

●材料の入手等の都合により、献立の一部が変更になる場合があります。

●献立に使用する食材については、各学年の献立により確認してください。

18日に提供する華麗舞というお米は有機栽培に取り組む営農組織により秩父市太田で作られました。

12月は忙しくなり、食生活が乱れることが多くなります。風邪や感染症を予防するためにも、好き嫌いなくバランスの良い食事を心がけることが大切です。規則正しい生活をして暮さるに負けない体を作り、残り少ない2学期も元気に過ごしましょう！

トライカード 学年 姓名 氏名

したこと(作ったもの) 実践した日 5月 5日

だれのために 自分

手順や方法(イラストや写真をはろう)

自分の感想 (父)のひとこと

トライカード 学年 姓名 氏名

したこと(作ったもの) 実践した日 5月 3日

だれのために 自分

手順や方法(イラストや写真をはろう)

自分の感想 (母)のひとこと

「華麗舞は有機栽培に取り組む営農組織により秩父市太田で作られました。」

<トライカード>
家族のために考えて実践したことをシートにまとめる、「お菓子を食べながらゆっくりテレビを見たいな」そのために「夕食を手伝う」「片付けを手伝う」「みんなを集める」「お菓子を準備する」「みんなを集める」「ゆっくりする」

秩父市で作った華麗舞を給食の献立で採用

5 実態調査

家庭科に関するアンケート調査結果

(1) 児童アンケート

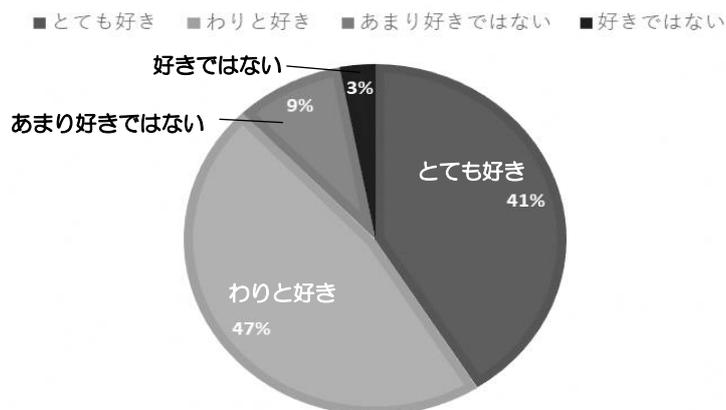
調査時期 令和6年5～6月

調査対象 秩父地区内

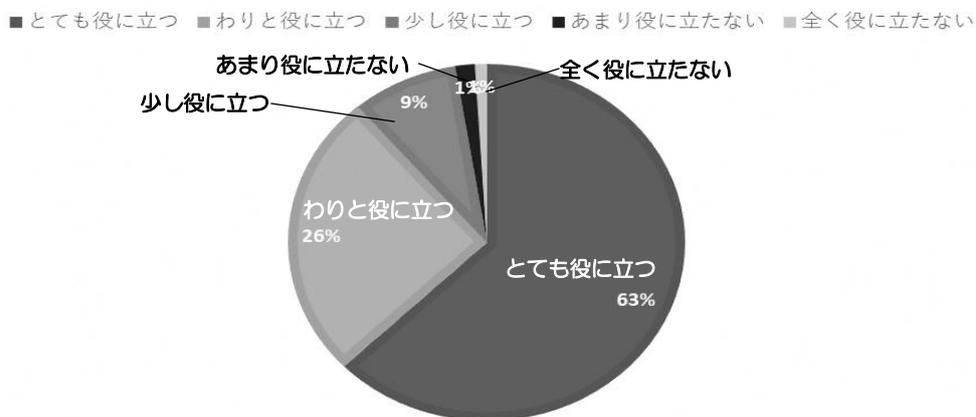
調査人数 5年児童数551名 6年児童数630名

【5年アンケート】

家庭科の授業は好きですか



家庭科の学習は、家庭生活上で役に立つと思いますか。

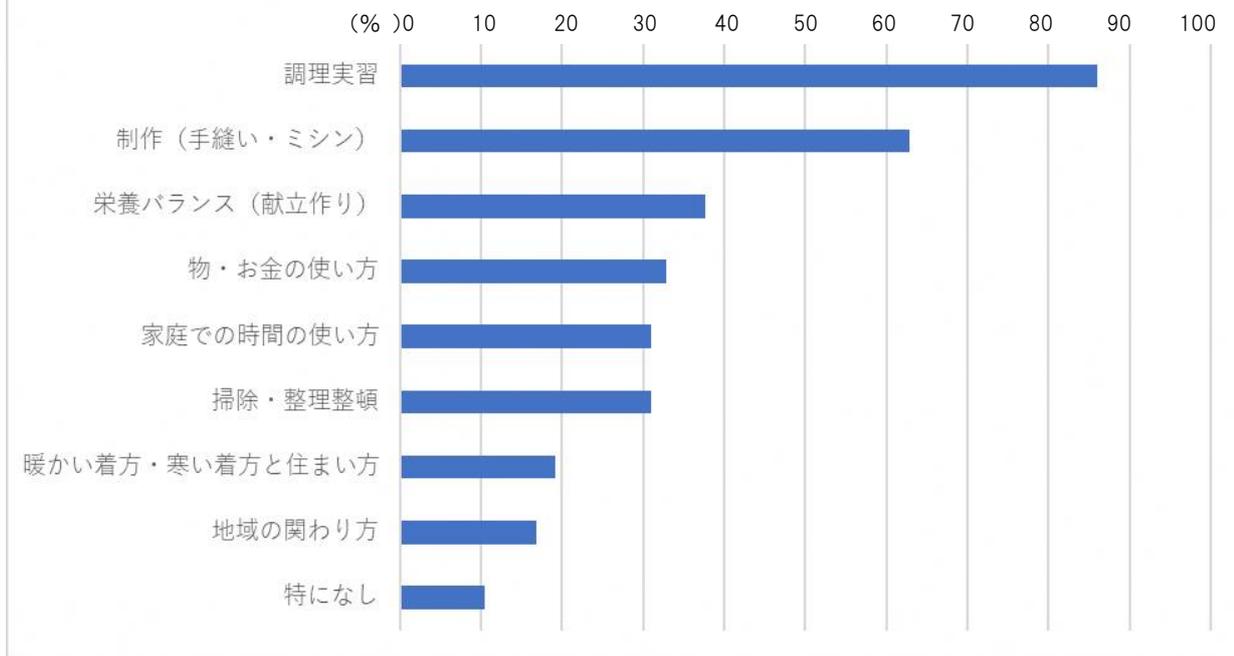


【考察】

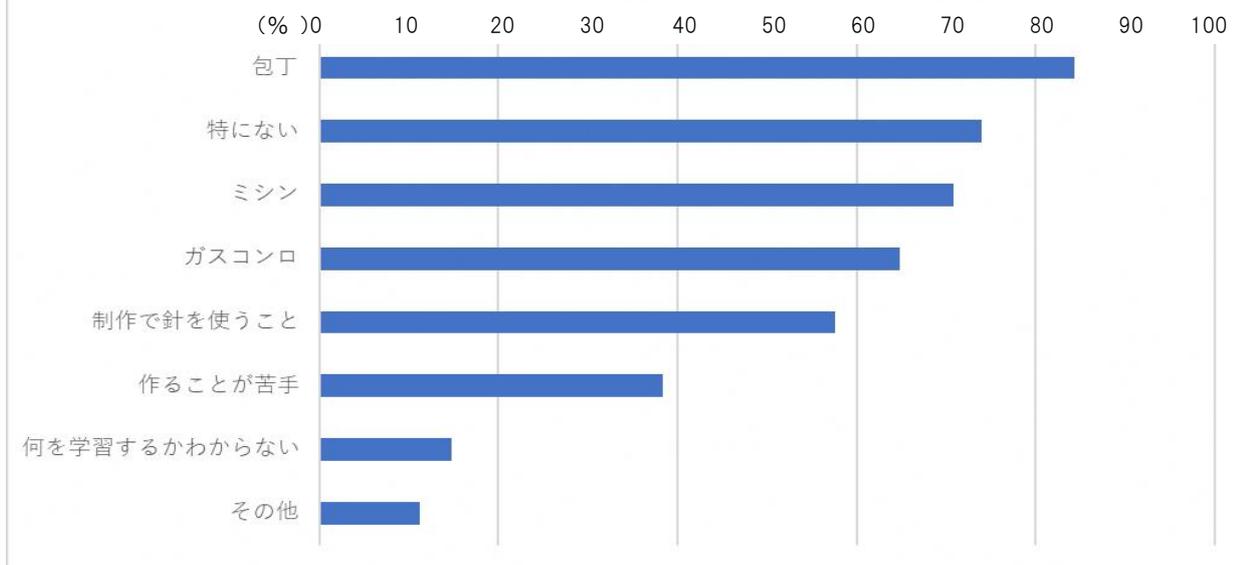
「家庭科の授業はとても好き・好き」という児童が約9割、また「家庭生活上で役立つ」と考えている児童も約9割である。初めて学習する教科への期待感とともに、日々の生活に直結した実技を伴う経験を重ねることで、児童が自立への意義を感じている現れと思われる。

「あまり好きではない・好きではない」という児童の割合も「役に立たない」と考える児童とほぼ同率であることから、学習を生活に結びつけ活かす体験をさせ、自信をもたせることが、授業への意欲向上につながるものと思われる。

家庭科の学習で楽しみなことは何ですか



家庭科の学習で心配なことは何ですか

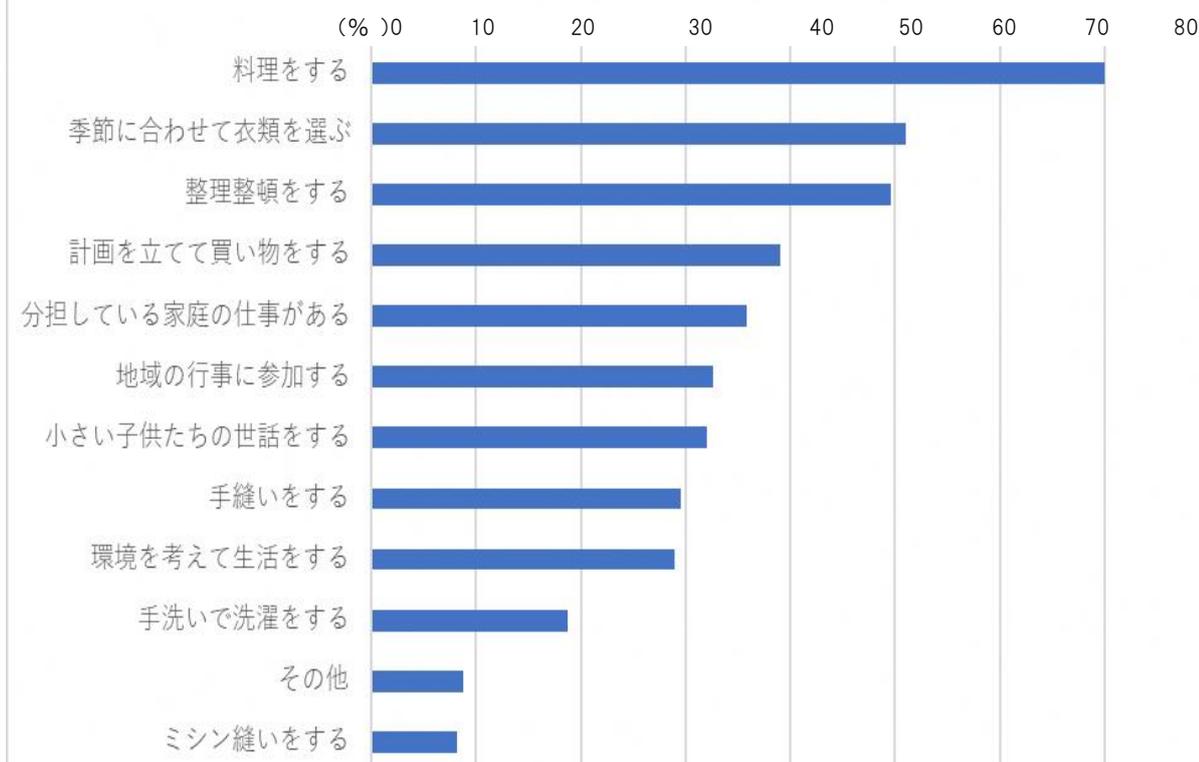


【考察】

家庭科の学習で、「調理・献立作成」「製作」を楽しみにしている児童が多い。実生活において関わりの深い分野に対する興味・関心の高さがうかがえる。

家庭科の学習で心配なことは、「ミシン・包丁・ガスコンロ・針をつかう」などの危険度の高いものが多くあげられている。これは授業での安全管理への注意喚起による指導成果であろう。しかし、児童にとっては生活経験としても少なく、自信の無さもうかがえる。学校での学びを家庭に返し、さらに楽しさを感じられるような実践につなげたい。

家で取り組んでいることはありますか



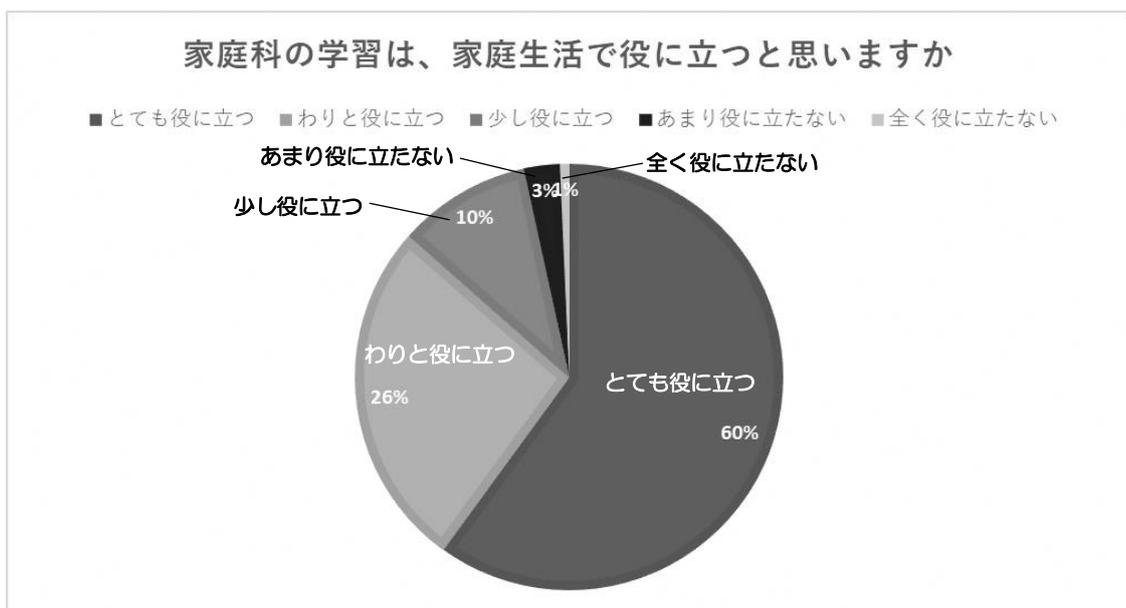
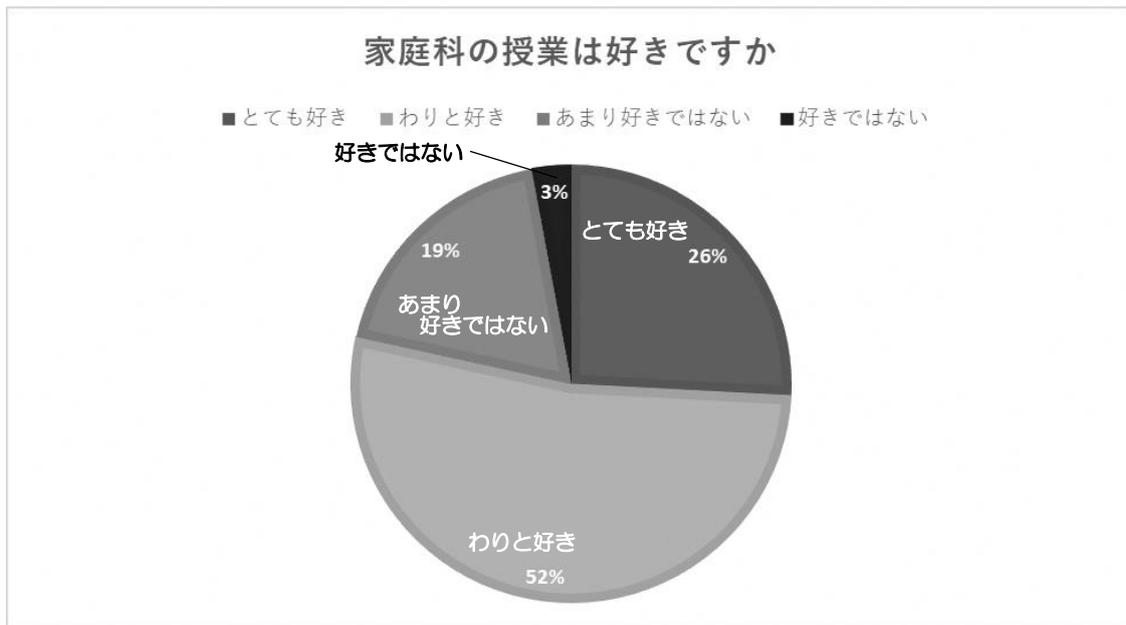
【考察】

「衣食住」どの項目においても、家での取り組みがうかがえる。

特に「料理をする」という割合が高く、家族と関わりをもつ様子が垣間見られ「分担している家庭の仕事がある」からも家庭での自己有用感の高まりに、家庭科の学習が活かされていると考えられる。また、「季節に合わせた衣服選び」「整理整頓」などからも、自立への1歩がなされているとかがえる。

家庭科の学びを家庭で実践したり地域の一員としての意識を高めたりすることで、児童が社会の一員として生活する基盤作りを培っていけると考える。

【6年アンケート】

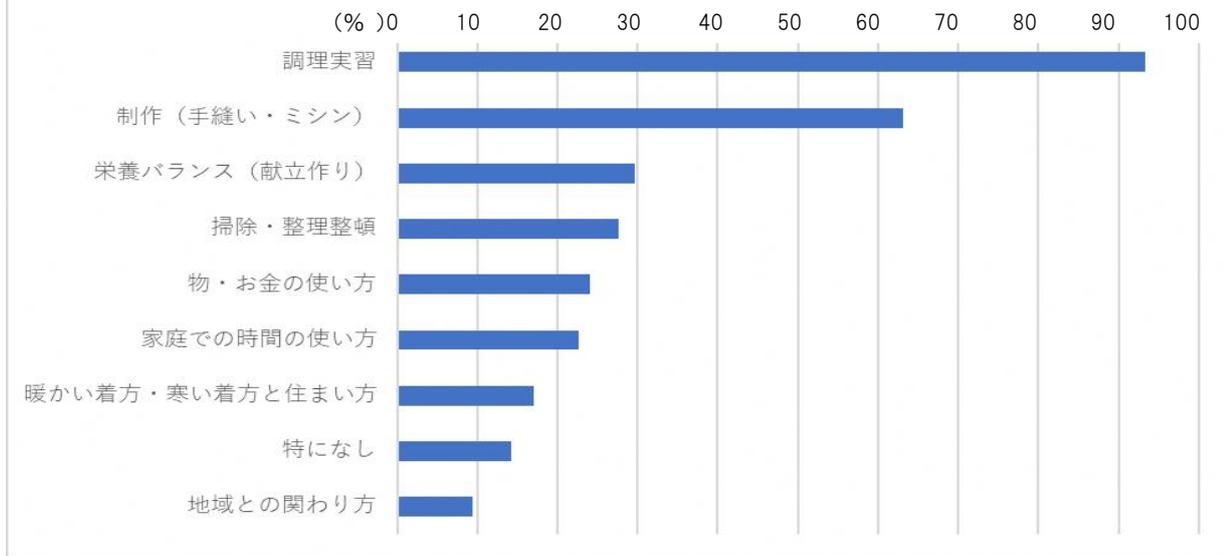


【考察】

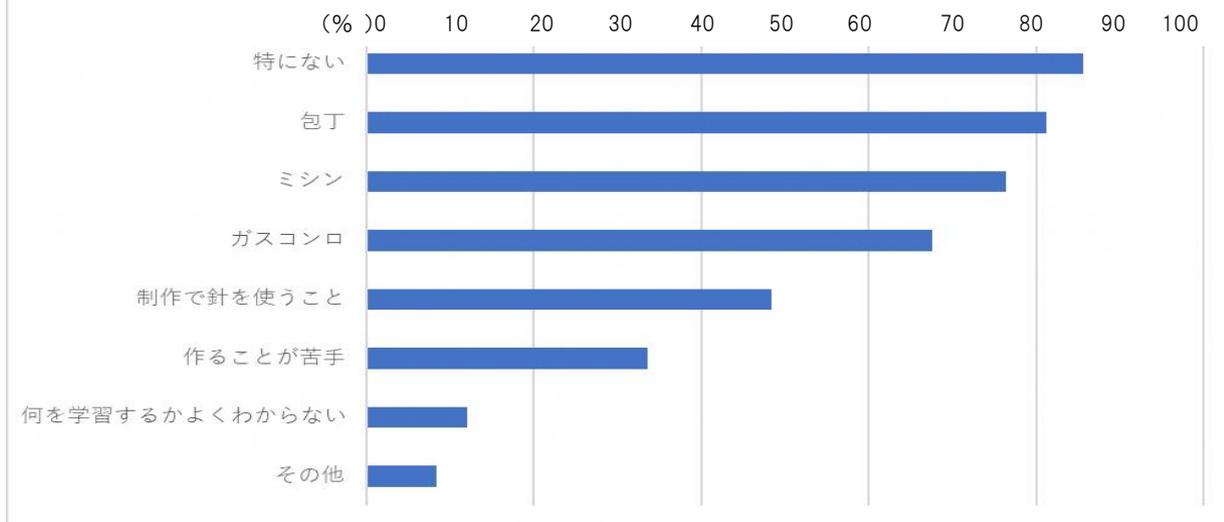
家庭科の授業を「とても好き・好き」という児童の割合が約8割で、5年の児童より1割少なかった。新型コロナウイルス感染症防止対策により、実習の制限が関係しているのではないかとと思われる。その反面、役に立つかという質問に対しては85%を超えているということから、家庭科の学習の必要性を感じている児童が大多数であることがわかった。

家庭科の授業が好きと感じていない児童に対し、丁寧に学習の積み重ねを行って自信をつけたり、見方・考え方を働かせたりしながら必要性を感じさせてあげられるよう学習過程を充実させることが必要である。

家庭科の学習で、楽しみなことは何ですか



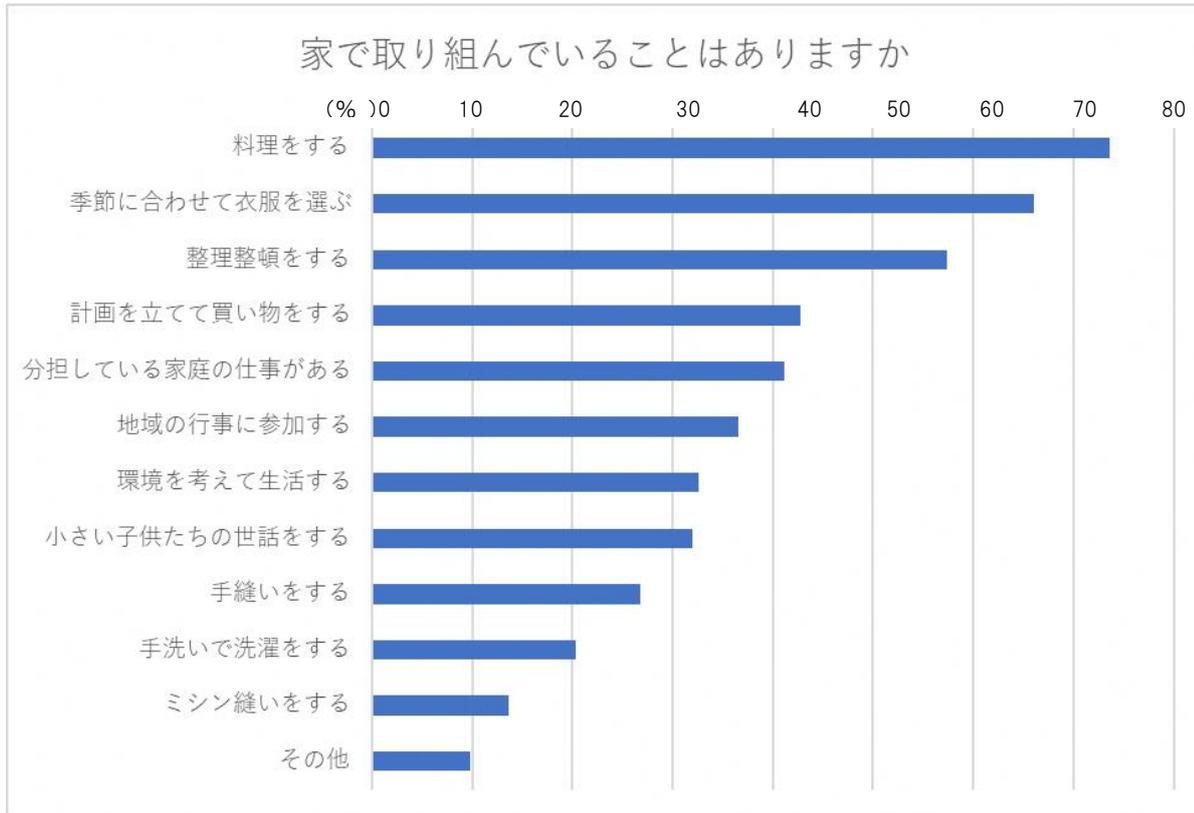
家庭科の学習で、心配なことは何ですか



【考察】

家庭科の学習で「楽しみなこと」「心配なこと」と感じている内容については、5年児童と傾向が似ている。「ミシン・包丁・ガスコンロ・針」など危険を伴うものが心配であると回答している。しかし5年児童と比較すると、「心配なことは特になし」という児童も多く「包丁・針」など、学習により5年の時より出来るようになったと感じる児童が増えたのではないかと考える。

「心配なこと」について、「ミシン・ガスコンロ」が5年児童と比較すると少し割合が多い。既習して難しさを感じるものの家庭でのミシンの有無やIHコンロ化の増加など、日常生活にあまりなじみのないものには不安を感じていることがわかる。「楽しみ」である児童も「不安がある」児童も、よりよい生活を送るために、意欲をもって取り組めるよう考えることが必要である。



【考察】

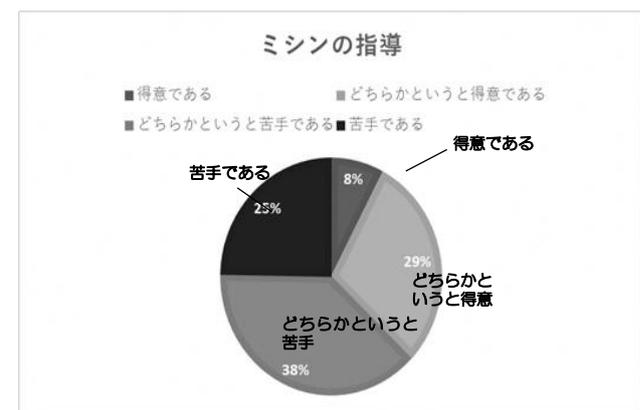
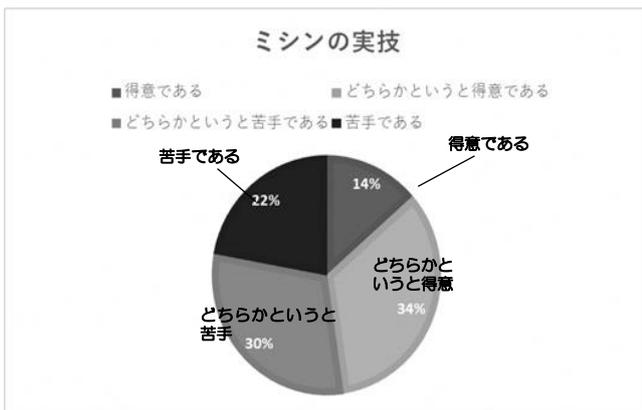
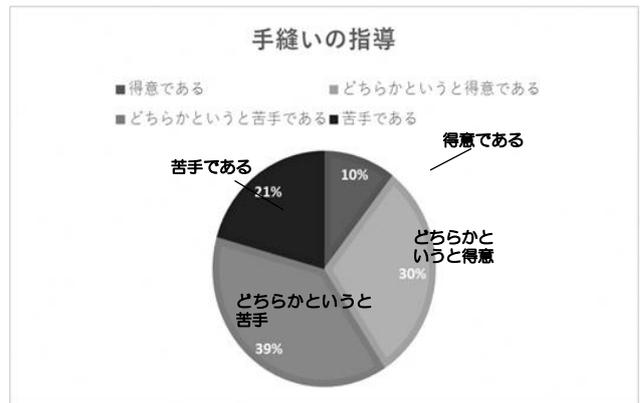
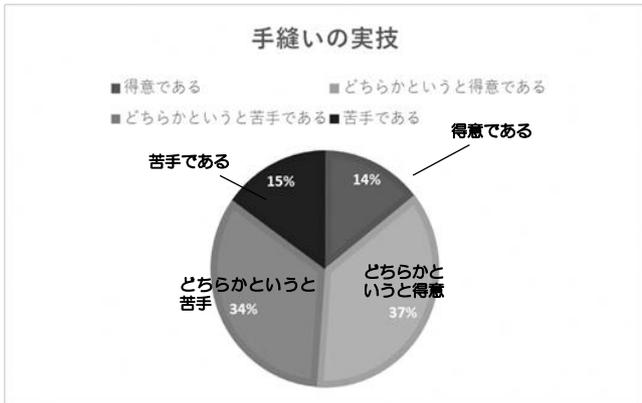
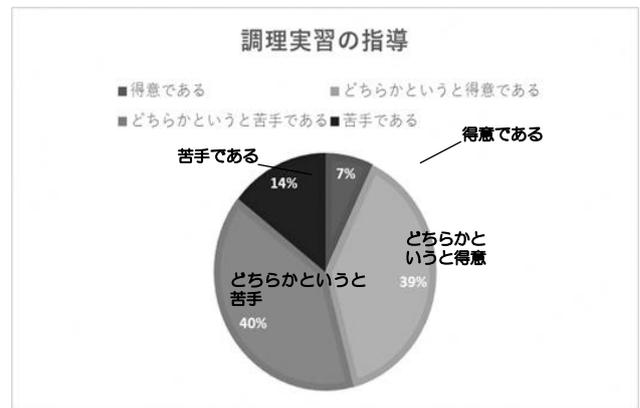
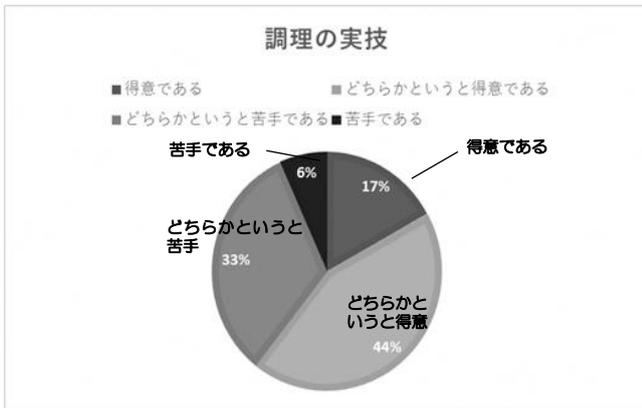
家族の一員としての自覚をもち、家で取り組んでいる内容として、「料理をする」「季節に合わせて衣服を選ぶ」「整理整頓をする」ことについて、多くの児童が意欲をもって取り組んでいる様子がわかる。

反対に、「地域との関わり」「小さい子どもたちの世話」「縫い物」については、日常の中での機会そのものが減っているのではないかと思われる。しかし、SDGsとして持続可能な社会を目指していく上で、環境を考えて生活している児童もいることがわかった。

「家族の一員」としての自覚、そして「将来に向けての社会や地域の構成員」としての自覚を育成していくことがより大切と考える。

(2) 教員アンケート

調査時期 令和6年5～6月
 調査対象 秩父地区内 教員
 調査人数 270名



【考察】

「調理」「手縫い」「ミシン」の実技における指導が「苦手」「どちらかといえば苦手」とする教員は6割近くいることがわかる。教員の日常生活における経験や授業における指導経験に個人差があるのではないかと考えられる。また、安全面を含め学級の児童数に対し、教員1名で指導することの難しさや苦手意識、不安感のある教員が多数いることも考えられる。

【全体の考察】

新型コロナウイルス感染症対策を受け、家庭科の教科においても活動の制限がされてきた中、多くの児童が家庭科の学習を楽しみにしていることや家庭生活で役に立つと考えていることがわかった。

また、家庭科の学習内容の中で児童の多くが「被服製作」や「調理」への関心が高い傾向がある。一方で、「地域社会との関わり」「環境」「金銭の取り扱い」に対する意識の低さや経験の浅さがわかった。

実技に関する児童の苦手意識や不安感については「包丁」や「ガスコンロ・火」「針・ミシン」の取り扱いなど安全面に関することや未経験によるものがほとんどであった。

教員においては、多くの教員が実技及びそれらの指導に対し、不安を抱えていることがわかった。特に、家庭で刃物や火器をほとんど扱ったことがない児童を教員1名で安全に指導しなければならないという現状があり、教員にとって、実習における負担感は大きいと考えられる。また、活動の制限によって、教員の指導への不安感は依然残っている。家庭科は実技教科であるため学習の積み重ねが大切である。家庭科の指導経験の浅い教員に対する情報提供の場や実技研修を通して自信をもってより安全に楽しく指導ができるようにする必要がある。

6 授業の実際

第6学年1組家庭科学習指導案

令和6年7月5日(金) 第5校時
児童数 21名
指導者 赤岩 萌

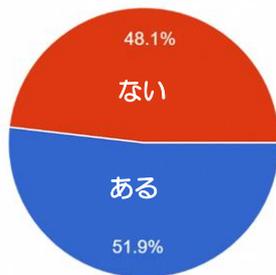
1 題材名 まかせてね 今日の食事 B(1)イ(2)ア(ア)(ウ)(エ) (3)ア(ウ)イ C(1)ア(イ)イ(2)イ

2 題材について

(1) 児童観

本題材の学習にあたり、食事に関する実態調査を行った。その中で「家庭科の学習で楽しみなこと」についての質問に9割以上の児童が「調理実習」と回答していることから、調理に対して興味・関心が高い児童が多いことが分かった。また、栄養バランスについての大切さを理解している児童は多いが、実生活に生かすことができている児童は少ない。調査結果は以下のようである。

食べることで気を付けていることはありますか。



「ある」と答えた児童の気を付けていること

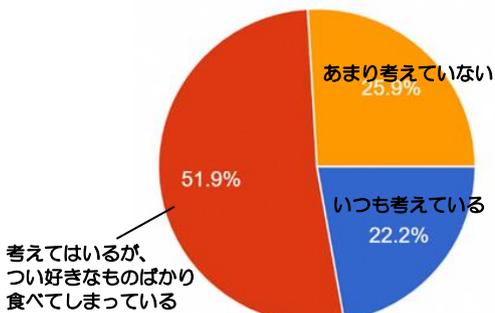
- ・栄養バランス
- ・嫌いなものでも食べる。
- ・残さず食べる。

バランスのよい食事とはどんな食事だと思いますか。

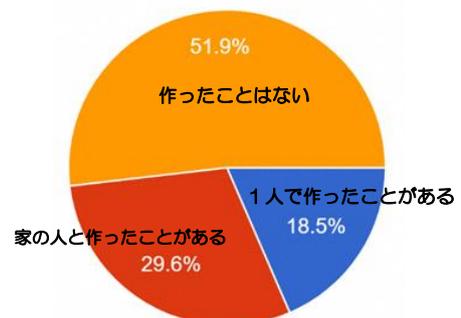
- ・三大栄養素を取れる食事
- ・和食
- ・ご飯とおかずがある食事
- ・野菜や肉をバランスよく食べる

以上の回答のように、「一つの栄養素に偏らず様々な栄養素がとれるようにすることが大切だと思う」という回答が多かった。

バランスを考えて食事をとっていますか。



おかずを作ったことがありますか。



(2) 題材観

本題材は、内容「B衣食住の生活」の(2)「調理の基礎」(3)「栄養を考えた食事」と「C消費生活・環境」の(1)「物や金銭の扱い方と買物」を関連させた題材である。これまで学習してきたことを生かして、よりよい食事のとり方や食事作りについて考える。栄養を考えた食事について、課題をもって、食品の栄養的特徴及び1食分の献立作成に関する基礎的、基本的な知識を身に付け、栄養のバランスを考えた1食分の献立を工夫することができるようにすることをねらいとしている。食品の組み合わせや環境への影響などを考え、「健康・快適・安全」や「生活文化」についての見方・考え方を広げ、児童が将来にわたって、よりよい食生活を送ることができる実践的な態度を育みたい。

(3) 指導観

アンケートの結果から、栄養バランスを考えた食事を心がけている児童は約26%であった。栄養バランスの大切さは理解しているものの、生活に活かすところまで至っていないのが現状である。指導にあたっては、児童が日頃食べている食事内容を調べることから始め、自分の食生活の課題「食べるものが決まっている、野菜をあまり食べていない」ということに気付かせ、よりバランスのとれた食生活にしていこうという意欲をもたせたい。

本時では家族のための食事を考えることで、食べやすさ、味や食材の好み、日常にある食材を活用することなども献立作りの上で大切なことに気付かせていきたい。また、今までに学習した調理の仕方を活用し、1人で栄養バランスのよいおかずを考えて作ることに意欲をもたせ、家庭実践へとつなげていきたい。

日常の食事に既習内容の、ゆでたりいためたりする調理方法を取り入れることで、1品副菜を加えたり、栄養のバランスを整えたりすることができることや、自分が食事作りに関わることで、家族の団らんにもつながることを指導していきたい。また、和食の献立を考えることで和食の素晴らしさや盛り付けの工夫、食器の並べ方についても理解を深めさせたい。

身近で食事を作る人の思いを酌み取ったり、楽しく食事をとることの大切さを理解したりしながら、1人でご飯を炊き、みそ汁の実を工夫し健康に留意したバランスのよいおかずを考えて作ることでできる児童を育てていくことをこの題材の最終的な目標としたい。

3 研究主題との関わり

研究主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

～生活の営みに係る見方・考え方を効果的にはたらかせる指導の工夫～

<研究主題に迫るための手だて>

視点1 実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫

・本題材は「B 衣食住の生活 (1) (2) (3)」「C 消費生活・環境」を関連させた題材であり、健康な体づくりでは理科や体育、食育の観点を踏まえた食習慣では特別活動、食料生産では社会、家族愛や感謝では特別の教科道徳と関連している。これまでの食の内容の題材第5学年「おいしい楽しい調理の力」「食べて元気! ご飯とみそ汁」第6学年「朝食から健康な1日の生活を」の題材でも家庭での実践を行ってきた。本題材は、2年間のまとめの題材として、家庭実践を位置付け、これからの生活に生かしていこうとする実践的な態度を育成することを目標としている。題材の系統性や他教科との関連を押さえ、様々な教科や活動を通して実践的な態度を育むことができると考える。

視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の工夫

・本題材は、内容 B (1) (2) (3)、C (2) イが関連している学習で、給食や毎日の1食分の食事内容を振り返ることから課題を設定し、自分の家族のための献立、調理実習に向けて個の課題設定、解決方法の検討、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善という一連の学習過程となっている。家族のための献立を評価・改善し、おかず作りの調理実習から、調理計画や環境を考え、調理計画を見直し、家庭実践を評価・改善することで、個の課題を解決するために主体的に学習に取り組むことができる学習過程とした。

・家庭科で学習した知識を概念として捉えさせ、実践に結び付けるには、身をもって感じる事が大切であると言われている。そのためには、話し合って学び合い、自分事として考える活動が不可欠である。そこで「解決方法の検討と指導の場面」では、個で立てた解決方法と計画を役割演技でシミュレーションし、グループで話し合いアドバイスし合う中で、計画をよりよいものに改善していくようにする。グループでの児童同士の対話や児童と教員との対話、全体の中での互いの考えを比較検討しながら、他者の考えも取り入れ改善できる活動を取り入れる。「実践活動の評価・改善の場面」では、交流会を振り返り、計画・実践レポートにまとめ、実践発表会を行い、新たな課題や次への実践への意欲向上につなげたい。その際、ICTを活用し、児童同士が分かりやすく交流できるようにする。

視点3 成長が実感できるようにする評価の工夫

・振り返りシートやワークシート、家庭科ノートなどを活用し、課題の解決に向けて努力したことや自己評価をもとに題材を振り返り、自己の成長を実感できるようにする。また、課題解決や実践の評価・改善の中でうまくいったことやうまくいかなかったこと、成果を実感できるようにしたい。

視点4 家庭・地域との連携の工夫

・これまでに学習してきた栄養を考えた献立作成、実習、家庭実践、楽しい食事の仕方の工夫をこれからの自分の食生活にどう活かしていくかを考えさせることで、児童の学びを実生活で活用できるようにする。

・学年便り、ホームページ等で家庭科での取り組みを家庭や地域に発信し、児童の学びを広げていく。

4 題材の目標

- ① 1食分の献立の栄養バランスや買い物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について理解するとともに、購入に必要な情報の収集・整理の技能を身に付ける。(知識及び技能)
- ② 1食分の献立の栄養のバランスや買い物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。(思考力・判断力・表現力等)
- ③ 家族の一員として。生活をよりよくしようと、栄養を考えた食事や買い物、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。(学び向かう力、人間性等)

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1食分の献立の栄養バランスや買い物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について理解するとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1食分の献立の栄養のバランスや買い物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の一員として、生活をよりよくしようと、栄養を考えた食事や買い物、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

【具体化した評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ol style="list-style-type: none"> ① 食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせると必要があることを理解している。 ② 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解している。 ③ 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 ④ 身近な物の選び方、買い方を理解しているとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ⑤ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取り扱い及び加熱用調理器具の安全な取り扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 ⑥ 環境に配慮した調理の仕方などについて理解している。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 1食分の献立の栄養のバランスについて問題を見いだして課題を設定している。 ② 1食分の献立の栄養のバランスや買い物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について考え、工夫している。 ③ 1食分の献立の栄養バランスや調理計画を評価したり、改善したりしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 栄養を考えた食事や買い物、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ② 栄養を考えた食事や買い物、環境に配慮した生活について課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ③ 栄養を考えた食事や買い物、環境に配慮した生活について工夫し、実践しようとしている。

6 題材の指導と評価の計画（10時間扱い）

小 題 材 名	時 間	○ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
献立の立て方を考えよう	1	○1食分の献立の栄養バランスについて問題を見いだして課題を設定することができる。 ・1食分の献立がどのような組み合わせになっているかを考える。 ・1食分の食事に使われている食品について、体内での主な働きを考え、3つのグループ分けをし、バランスのよい組み合わせになっているかを確認する。	①食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせると必要があることを理解している。 (行動観察・家庭科ノート)	①1食分の献立の栄養のバランスについて問題を見いだして課題を設定している。 (行動観察・家庭科ノート)	
	家族のためのとおきの食事をつくるためにどんな工夫が必要だろうか。				
一食分の献立を立てて調理しよう	2 3	○いろいろな食品を使ってご飯とみそ汁を中心とした1食分の献立を考える。 ・食事の大切さや、献立を計画する大切さを知る。	②献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解している。 (家庭科ノート)	②1食分の献立の栄養のバランスや買い物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について考え、工夫している。 (行動観察・家庭科ノート・実践記録)	①栄養を考えた食事や買い物、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 (行動観察・家庭科ノート)
	4 5	○必要な材料と分量、用具、手順を調べて調理計画を立てる。 ・材料や手順を調べ、献立の調理計画を立てる。 ・環境に配慮した調理の計画が立てられるように話し合う。	③調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。 (行動観察・家庭科ノート)		
	6 7	○環境に配慮した買い物の仕方について考え、材料の準備をする。 ・買い物の目的を確かめて食品を買うときの注意点を考え、話し合う。	④身近な物の選び方、買い方を理解するとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。 (行動観察・家庭科ノート)		
	8 9	○立てた調理計画に基づき、ゆでたり、いため	⑤調理に必要な用具や食器の安全で衛生的		

		たりして、自分なりに工夫したおかずを作ることができる。 ・実習の流れと時間について話し合い、およその時間計画を確かめる。 ・調理実習をする。 ・よかったことや次に生かすことをまとめる。	な取り扱い及び加熱用調理器具の安全な取り扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 ⑥環境に配慮した調理の仕方などについて理解している。 (行動観察・家庭科ノート・実践記録)	題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。 (行動観察・家庭科ノート・実践記録)
楽しく食事をするために計画を立てよう	10 本時	○家族のために、栄養バランスを考え、適切に1食分の献立や調理計画を工夫し、評価改善する。 ・栄養バランスや調理法を考えて1食分の献立を作る。 ・献立を立てて友達と伝え合い、友達の工夫や気づいたことを自分の献立に取り入れたりする。 ・家庭での実践		③1食分の献立の栄養バランスや調理計画を評価したり、改善したりしている。 (ワークシート) ③栄養を考えた食事や買い物、環境に配慮した生活について工夫し、実践しようとしている。 (家庭科ノート)

7 本時の学習指導 (本時 10 / 10時)

(1) 目標

1食分の献立の栄養バランスや調理計画を評価したり、改善したりしている。

【思考・判断・表現】

(2) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点 (・) 評価規準 (◇) 【評価の観点】 (評価方法) 手立て (→)	時間
1 本時の学習課題をつかみ学習の見通しをもつ。	・本時の学習の流れ、動き、時間を確認する。	5
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 家族のためのとっておきの食事を作る工夫をしよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・献立を構成する要素 (主食、主菜、副菜、汁物) を確認する。 ・栄養素の主な働きの違いについて食品を分けて確認する。 ・5年生の時の「みそ汁作り」や6年生での「朝食に合うおかずづくり」を思い出させ、家庭での実践につなげられるように意欲を高める。 ・主食はご飯であることを押さえる。 	
2 家族のためにどんなテーマの献立にするか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に食べさせたいかを明確にさせる。 ・家族のための1食分の食事を考える時にはどんなことに気を付けたらよいかについて確認する。(好み・健康状態・年齢等) ・児童の発表から「栄養のバランス」「材料の切り方」「色どり」「旬や地域の食材」等、工夫できるポイントを確認する。 	7

<p>3 「家族のためのとっておきの献立」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに主食、主菜、副菜、汁物を栄養バランスに分けて献立を書きこむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの学習を生かし、「ゆでる」「いためる」の調理方法で作ることのできるおかずを考えるように助言する。 副菜はいくつか例を掲示し、参考にできるようにする。 思いつかない児童には給食の献立をヒントカードとして見せる。 事前に家族にインタビューした好みの食材なども参考にする。 和食の画像や作り方など調べさせる。(ICTの活用 視点2) 身近にある食材(野菜や味噌など)を使うとよいことを話す。(地域の特色を活かす 視点4) 条件を設定する 包丁を使う野菜を必ず入れる。全体でバランスが取れるように 自分でできることを 主菜副菜に迷っている児童には、参考にしているいいサイトをタブレットに入れておいたり、みそ汁の実の取り合わせのヒントカードを用意したりしておく。 	13				
<p>4 グループで1食分の献立を見合い、良いところや気付いたことを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 献立のテーマにあった内容になっているか、食品分類表を見て栄養のバランスがよいかについて確認するよう助言する。 	5				
<p>5 友達の意見をもとに自分の献立を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達のアドバイスをもとに、テーマにあった献立になっているか、再度見直しをさせる。 <table border="1" data-bbox="590 985 1388 1310"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="590 985 1388 1108">◇1食分の献立の栄養バランスや調理計画を評価したり、改善したりしている。【思考・判断・表現】(ワークシート・観察)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="590 1108 853 1310">おおむね満足できる状況(B)</td> <td data-bbox="853 1108 1388 1310"> <ul style="list-style-type: none"> 家族の健康を気遣った栄養バランスのよい献立や環境に配慮した調理の仕方の計画を評価改善し記述している。 →献立のテーマ、これまでの学習や友達のアドバイスを再確認させる。 </td> </tr> </table>	◇1食分の献立の栄養バランスや調理計画を評価したり、改善したりしている。【思考・判断・表現】(ワークシート・観察)		おおむね満足できる状況(B)	<ul style="list-style-type: none"> 家族の健康を気遣った栄養バランスのよい献立や環境に配慮した調理の仕方の計画を評価改善し記述している。 →献立のテーマ、これまでの学習や友達のアドバイスを再確認させる。 	7
◇1食分の献立の栄養バランスや調理計画を評価したり、改善したりしている。【思考・判断・表現】(ワークシート・観察)						
おおむね満足できる状況(B)	<ul style="list-style-type: none"> 家族の健康を気遣った栄養バランスのよい献立や環境に配慮した調理の仕方の計画を評価改善し記述している。 →献立のテーマ、これまでの学習や友達のアドバイスを再確認させる。 					
<p>6 家族のためのとっておきの献立を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家族への思いや工夫したところ、改善したところにふれるように声をかける。 <table border="1" data-bbox="582 1534 1412 1612"> <tr> <td data-bbox="582 1534 1412 1612">家族への思い×栄養バランス×工夫=とっておきの献立になる</td> </tr> </table>	家族への思い×栄養バランス×工夫=とっておきの献立になる	5			
家族への思い×栄養バランス×工夫=とっておきの献立になる						
<p>7 題材全体の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これからの食生活で気を付けたいこと、学習したことを自分の生活にどう生かしていくかについて振り返るよう声をかける。 	3				

7 板書計画

家族のためのとっておきの献立を考えよう

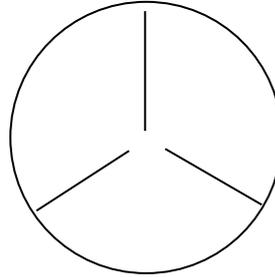
【献立を考えるポイント】

- ① 食べさせたい人への思い
- ② 栄養バランス
- ③ 自分一人で作れる
- ④ 旬、地域の食材
- ⑤ 調理等の工夫

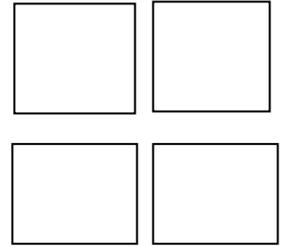
家族への思い×栄養バランス×工夫
=とっておきの献立になる

栄養素のはたらきによる

食品の分類



副菜の例



8 ワークシート (10/10 時間)

家族のためのとっておきの献立を考えよう。

献立のテーマ

のための

主菜：

副菜：

主食：

汁物：

工夫・ポイント

【授業の実際】



食べさせたい相手を思い浮かべながら、喜んでもらえそうな献立を考える。



栄養バランスや調理方法についても確認する。



アドバイスし合ったり、友達の意見をもとに自分の献立を見直したりする。



家族への思いや工夫したことについて全体で共有する。

指導者 北部教育事務所指導主事 松本美香 先生

さいたま市立上落合小学校教頭 金子 明日香 先生

＜研究協議及び指導・講評＞

- 調理の集大成の単元である。“家族のために…”というテーマ設定はとても良い。意欲的かつ実践的な取組につながる。児童の中からも「好き嫌いをなくそうご飯」や「おじいちゃんが作った野菜を使ったご飯」等、相手のことを思いやった発言が多く出ていた。
- グループになって友達の意見を聞き、アドバイスを取り入れてメニューを考え直していた。対話を通して自分の考えを深めることができた。

△家庭実践につなげていくためにも、条件設定が必要である。ご飯とみそ汁は固定して、子どもたちが考えるのは主菜、副菜とみそ汁の実のみでよい。学習指導要領の内容を超えないこと、既習事項の範囲を超えないことが大事である。

△献立を時間内に考えられない児童がいた。ヒントカードや選択肢を示したほうがよい。

△友達からのアドバイスを取り入れて修正した例を全体で取り上げるとよかった。

△実践発表会を11時間目に設定するとよいのでは。

- 本時のポイントは「家族のための食事を考えることで、食べやすさ、味や食材の好み、日常にある食材を活用することなども献立作りの上で大切なことに気付かせていく」ことであり、「自分が食事作りに関わることで、家族の団らんにもつなげていく」ことである。条件設定をすることは、自由な発想を排除し、主体性を封じ込めてしまうのではないかと懸念もある。今回、学習指導要領の範疇を超えた奇抜な献立は出てこなかったことから、本時に至るまでの指導により、子どもたちには意図が伝わっていたと考えられる。また、仮に生ものや揚げ物等を挙げてくる児童がいた場合、理由を付けて今回は適切ではない旨を伝えることも児童にとっての学びにつながるのではないかと考える。
- 実践発表会は家庭環境への配慮等で難しい部分がある。動画や写真をタブレットに記録して、振り返りとともに教師に提出する形を計画した。
- 時間内に献立を全く考えられない児童もいた。事前に考えてくるよう投げかける事も必要と感じた。

IV 研究の成果と課題

1 成果

- ・他学年、他教科との関連を意識して、指導計画を作成したことにより、系統的・横断的なつながりを明確にして、指導することができた。
- ・「これからどんなことを知りたいか」「どんなことができるようになりたいか」などの児童の思いや問いから、学習課題を題材の初めに設定したことで、一層主体的な課題解決的な学習が行えた。
- ・主体的・対話的で深い学びを実現させるために、児童に個・ペア・グループで考えさせる場面を設定することで、新たな考え方に気づき、問題解決に向けて、更に自分の考えを調整し、深めることができた。

2 課題

- ・家庭科の特徴である「生活を工夫し実践していく」という点を意識して取り組んでいくことが課題である。家庭環境が複雑になり、地域との関わりも薄れてきた中で、家庭・地域との連携を継続しながら、実生活で生かせる家庭科の授業改善を一層図る必要がある。
- ・全ての評価規準において、どの場面で、どのような方法で見取っていくのかが大きな課題である。ICT活用を含めた評価方法の研究を進めていきたい。
- ・授業展開をするにあたり、事前の準備の大変さがアンケート結果からも明白ある。誰でも、いつでも、同じように指導できるよう、指導方法の工夫・改善をすることや、教員間で効果的な指導方法や授業展開の仕方を共有し、広めていくことが必要である。
- ・1人1台のタブレット端末を、毎日の授業の中で学習の道具として活用できるようになってきた。家庭科における学び合いや個別最適な学習への効果的な活用方法を研究し、広めていくことがこれからの課題である。

埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動状況

目 次

あいさつ	39
1 令和6年度事業計画	39
2 役員及び運営組織・各部等の活動内容	40
3 総会並びに講演会	41
4 研究指定地区研究の歩み一覧表	42・43
5 地区別授業研究会 《西部・入間 南部・（上尾三市町） 東部・埼玉葛 さいたま市》	44・45
6 各部活動報告（研修部、広報部、調査研究部 庶務部）	46・47
7 専門委員会報告	48
8 令和6年度全国大会	49
9 令和6年度埼玉県小学校家庭科教育研究会役員名簿	50

あ い さ つ

埼玉県小学校家庭科教育研究会会長 井上 千春

本研究会は、昭和45年に第1回研究会を開催して以来、小学校家庭科教育の充実・発展を願い、たゆまぬ努力と実践を重ねてまいりました。その間、昭和63年に埼玉県にて第25回全国小学校家庭科教育研究大会、平成11年に第17回、平成24年に第29回令和3年に第37回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会を開催することができました。コロナ禍で参集型での研究協議会ができない等を経験する中でも、「一人の百歩より百人の一步」を基本とした会員の方々の地道に取り組んできた努力のお陰と深く感謝申し上げます。

さて、今年度の研究指定地区である北部（秩父）地区の研究発表が秩父市立影森小学校で開催されることとなりました。研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」と設定して、これまでの本会での研究を基礎とし、研究を積み重ねてまいりました。また、県内各地区におきましても、昨年度までの研究成果を引継ぎながら、さらなる家庭科教育の充実・発展に繋げるための研究が継続されていますことに感謝いたします。

なお、本会の専門委員会では、県内の家庭科授業の向上のため、各地区で行われている授業研究会での実践をHPで公開し、各校での授業の参考にさせていただき、さらなる授業改善を進めていただきたいと思います。

本研究集録は、前半に指定地区の研究を、後半に研究会の組織及び各部の活動状況を掲載しております。各学校でご活用いただければ幸いです。

1 令和6年度事業

- (1) 令和6年度総会（第1回役員研修会）
 - 6月14日（金）
 - ・令和5年度事業報告、活動報告、決算報告、監査報告
 - ・新役員承認、研究組織
 - ・令和6年度事業計画、活動計画、予算案
 - ・令和6年度指定地区の研究概要説明
 - ・感謝状の贈呈
 - ・講演会
講師：埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事 笹嶋 京子先生
- (2) 夏季研修会（第2回役員研修会）
 - 8月9日（金） 於 withyou さいたま
 - ・5部会の活動経過報告について
 - ・今年度の研究発表について
 - ・次年度の研究発表について
- ・講演会
講師：埼玉県総合教育センター
指導主事 山崎 元美 先生
- (3) 埼玉県児童生徒発明創意くふう展
10月23日（水）～24日（木）
於 新都心ビジネス交流プラザ
- (4) 指定地区研究発表会（北部地区）
11月6日（火）
於 秩父市立影森小学校
- (5) 地区別授業研究会（地区ごとに実施）
南部（上尾三市） 西部（入間）
東部（埼玉） さいたま市
- (6) 本部役員会・第2回役員研修会
2月半ば頃 於 withyou さいたま（予定）
 - ・今年度の反省
 - ・次年度への展望

2 役員及び運営組織・各部等の活動内容

(1) 役員等（会則2章による）

- ① 会長 1名
 副会長 5名
 監事 若干名
 幹事 若干名
 常任理事 若干名
 理事 各班1～2名程度
- ② 名誉会長・顧問 歴代会長が顧問となる。

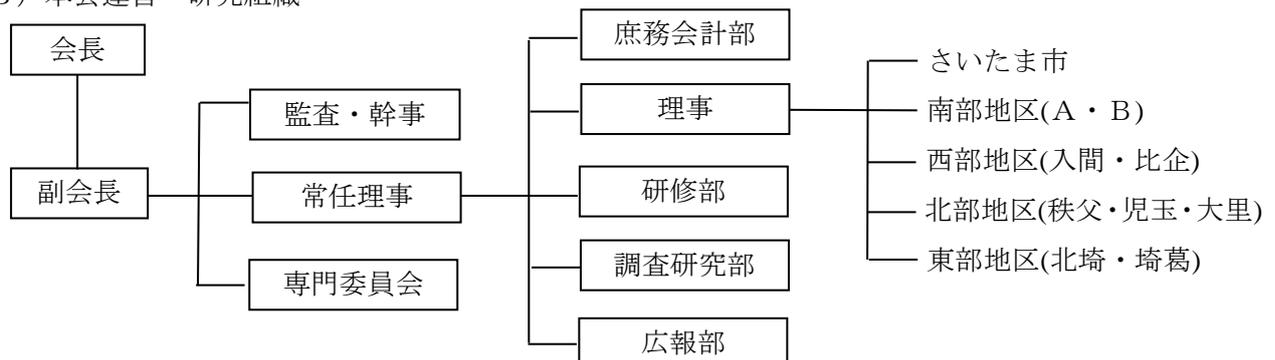
(2) 歴代会長

代	氏名	期間
初代	若田 せつ	昭和42年度～53年度
2代	塚脇 和子	昭和54年度～56年度
3代	村田 美代	昭和57年度～58年度
4代	湯本トヨジ	昭和59年度
5代	横田 節子	昭和60年度～63年度
6代	松崎 澄枝	平成元年度～3年度
7代	熊倉 晴子	平成4年度
8代	根岸 彩子	平成5年度～7年度
9代	近藤 三恵	平成8年度
10代	木島 千恵	平成9年度～10年度
11代	吉泉 幸枝	平成11年度～13年度
12代	西田三枝子	平成14年度
13代	関口 享子	平成15年度
14代	島村 憲子	平成16年度
15代	佐藤 順子	平成17年度
16代	野本 和子	平成18年度
17代	山中伊久枝	平成19年度
18代	後田 房枝	平成20年度～22年度
19代	小川三代子	平成23年度～25年度
20代	宮川みさ子	平成26年度
21代	野口 紀子	平成27年度
22代	染谷 和美	平成28年度
23代	田中 恵子	平成29年度～30年度
24代	榊原 久子	令和元年度
25代	長島 淑子	令和2年度
26代	池田智恵子	令和3年度
27代	小峯由起子	令和4年度～5年度
28代	井上 千春	令和6年度

(4) 各部の構成と活動内容

部会	部長	部員	活動内容
研修部	金子 明日香	原田 千恵 伊藤よおこ 池田 絢子 古森 美希 吉田 友季 松本あずさ 入江 陽子 関根恵里香 田村かおる 阿佐見菜穂子	研修会の計画・準備・運営 プレ授業の指導 研究集録作成
調査研究部	棚村 かおり	輿水 令子 三ツ木 萌 新井 美穂 飯野 素美	全国調査協力
広報部	関口 循子	大澤由美子 杉山さおり 下村 由香 島田 智也 熊倉 梨紗 中田 美和	名簿作成 研究集録作成（会報）
庶務部	川村 亜希子	小笠原泰代 齊藤 和子 星野 明希 土居 拓馬 佐藤 光 遠藤 育美	研究会細案 紀要等袋詰 文書作成 開催承認 要綱準備
会計部	三ヶ尻陽子	高橋容史子 渡邊はるか	会計関係
専門委員会	刑部 香織	本田 達哉 小島 里香 澤頭麻佑子 齊藤 浩子 小川 淳子 田中友里子 岸 寛子 佐藤 葵 小野沢 樹	4地区の研究掲載 略案作成

(3) 本会運営・研究組織



3 総会並びに講演会

令和6年6月14日(金)に、さいたま市の「Withyou さいたま」にて令和6年度の総会並びに講演会が実施された。

(1) 総会(第1回役員研修会)

① 議事

- ・令和5年度事業報告
- ・4部会、専門委員会の活動報告
- ・令和5年度決算報告
- ・監査報告
- ・新役員の承認
- ・新役員の挨拶
- ・令和6年度事業計画
- ・令和6年度予算案

② 委嘱式

研究発表校：秩父市立影森小学校

③ 研究推進委員長による研究概要説明

- ・主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」
ー生活の営みに係る見方・考え方を効果的にはたらかせる指導法の工夫ー

- ・期日 令和6年11月6日(火)
- ・会場 秩父市立影森小学校
- ・研究の視点

1. 実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫
2. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の工夫
3. 成長を実感できるようにする評価の工夫
4. 家庭・地域との連携の工夫

④ 感謝状の贈呈 小峯由紀子様、影山葉子様、井上千世様

⑤ その他

- ・全小家研の申し込み
- ・夏季研修会の日程
- ・全国大会及び関ブロ大会の神奈川大会の案内
- ・学校メールの確認のお願い
- ・感謝状贈呈対象基準の変更

- ・専門委員設置の変更

(2) 講演会

演題「これからの家庭科教育について」

講師 埼玉県教育局市町村支援部

義務教育指導課

指導主事 笹嶋 京子 先生

内容

① 令和5年度を振り返って

○学習指導要領の趣旨を踏まえ、脂質・能力の育成を目指した取り組みが増加傾向

○題材の学習過程を工夫し、実生活と関連を図った問題解決的な学習を取り入れた実践の増加傾向

② 学習指導要領の着実な実施からよりよい実施を目指して

○学習指導要領のよりよい**実施**を目指して

○家庭科の目標、内容を常に確認する。小学校は教科書通り指導する。

○「問題を見出して、課題を設定する」学習過程を充実させる。

③ 小・中・高等学校の内容の「つながり」を意識する。

○内容の系統性の明確化

○空間軸と時間軸の視点からの小・中・高等学校における学習対象の明確化

○学習過程を踏まえた育成する資質・能力の明確化

④ 県の取組等

○「埼玉県小・中学校教育課程指導・評価資料」や「同実践事例」の活用を。

○埼玉県の指導の重点

- ・ICTの効果的な活用
- ・生活や社会の中から問題を見だして課題を設定し、解決する力の育成
- ・「指導と評価の一体化」の実現

4 研究指定地区研究の歩み一覧表

回数	年度	研究指定地区	研究主題・副題	会場校
1	昭和45	北足立北部地区	改正をふまえた領域別指導の研究 —児童の主体性をのばすための学習指導方法—	大宮市立 大宮小
2	昭和46	大里・秩父・児玉地区	効率を高めるための学習指導法 (全領域)	熊谷市立 桜木小
3	昭和47	入間・比企地区	教科の本質をおさえた指導課程の研究 (食・住・家領域)	川越市立 第一小
4	昭和48	埼玉・北埼玉地区	主体的に取り組み、実践力をつけるにはどうしたらよいか (被・食・住領域)	幸手市立 幸手小
5	昭和49	北足立南部地区	主体的に取り組み、実践力をつけるにはどうしたらよいか (被服領域)	浦和市立 常盤小
6	昭和50	北足立北部地区	実践的態度を高めるために家庭科指導はどのようにしたらよいか —被服領域を中心として—	大宮市立 日進小
7	昭和51	大里・秩父・児玉地区	実践力を高める食物領域の指導	秩父市立 西小
8	昭和52	入間・比企地区	主体性を高める学習指導 (被服領域)	東松山市立 高坂小
9	昭和53	埼玉・北埼玉地区	豊かな人間性をめざして実践的態度を育てる家庭科指導 —被服領域を中心として—	羽生市立 南小
10	昭和54	北足立南部地区	豊かな人間性をめざして実践的態度を育てる家庭科指導 —食物領域を中心として—	新座市立 新座小
11	昭和55	北足立北部地区	主題：前年度と同じ —被服領域における基礎的事項の工夫—	桶川市立 桶川西小
12	昭和56	大里・秩父・児玉地区	主題：前年度と同じ —やる気と喜びをもたせる学習指導の工夫—	神川町立 青柳小
13	昭和57	入間・比企地区	主題：前年度と同じ —日常生活を見直す目を育てる学習指導の工夫— (食物領域)	坂戸市立 浅羽野小
14	昭和58	埼玉・北埼玉地区 第1回関東大会	豊かな人間性をめざして実践的態度を育てる家庭科指導の研究 —基礎をおさえて生活に生かす指導の工夫—	春日部市立 宮川小
15	昭和59	北足立南部地区	主題：前年度と同じ —住居と家庭領域の指導を中心として— (住居と家庭領域)	川口市立 本町小
16	昭和60	北足立北部地区	豊かな人間性をめざして実践的態度を育てる家庭科指導 —基礎をおさえ、やる気を育てる指導法の工夫— (食物領域)	鴻巣市立 馬室小
17	昭和61	大里・秩父・児玉地区	主題：前年度と同じ —生活実践に生きる家庭科指導の研究— (被服領域)	寄居町立 男衾小
18	昭和62	入間・比企地区	時代の変化に適応できる豊かな創造性と実践力を育てる家庭科指導 —体験学習を生かし自ら工夫し実践する児童の育成— (食物領域)	小川町立 大河小
19	昭和63	北足立北部地区 第25回全国大会	主題：前年度と同じ —自ら工夫し、実践する子どもをめざして— (食物領域)	大宮市立 大宮小 宮原小
20	平成元	埼玉・北埼玉地区	主題：前年度と同じ —自ら工夫し、実践する子どもをめざして— (被服領域)	行田市立 西小
21	平成2	北足立南部地区	主題：前年度と同じ —快適な生活を営むための工夫や実践ができる子どもをめざして— (家族の生活と住居領域)	浦和市立 大門小
22	平成3	大里・秩父・児玉地区	時代の変化に対応できる豊かな創造性と実践力を育てる家庭科指導 —喜びを味わう食生活の工夫— (食物)	秩父市立 影森小
23	平成4	入間・比企地区	主題：前年度と同じ —生活を見つめ、自分らしさを表現できる子どもをめざして— (被服領域)	川越市立 牛子小
24	平成5	埼玉・北埼玉地区	主題：前年度と同じ —家族への思いを大切に、自ら生活に生かす子の育成— (家族の生活と住居)	杉戸町立 杉戸第二小
25	平成6	北足立南部地区	社会の変化に主体的に対応する豊かな心と実践力を育てる家庭科学習 —身近な生活に目を向け、よりよい環境づくりに努める子—	新座市立 栗原小
26	平成7	北足立北部地区	主題：前年度と同じ —一人一人の思いや豊かな発想を生かして実践する子—	吹上町立 吹上小
27	平成8	大里・秩父・児玉地区	主題：前年度と同じ —自分の生活に目を向け、進んで実践していこうとする子をめざして— (食物領域を中心として)	本庄市立 旭小
28	平成9	入間・比企地区	主題：前年度と同じ —身近な生活から課題を見つけ、自ら解決し実践する子をめざして— (食物領域を中心として)	東松山市立 青鳥小

29	平成10	埼玉・北埼玉地区	社会の変化に主体的に対応する豊かな心と実践力が育つ家庭科学習 —自分の思いや願いを生かしよりよい生活をめざして実践する子— (食物・家族の生活と住居領域)	加須市立花崎北小
30	平成11	入間・比企地区 第17回関東甲信越地区大会	生きてはたらく力が育つ家庭科の学習 —自ら気づき考え実践する子をめざして— (被服、家族の生活と住居領域)	川越市立大東西小
31	平成12	南部A地区 (北足立南部地区)	社会の変化に主体的に対応する豊かな心と実践力が育つ家庭科学習 —自ら学び実生活に活かす力を育てる指導法の研究— (食物・家族の生活と住居領域)	草加市立八幡小 八幡北小
32	平成13	秩父・北部地区 (大里地区)	主題：前年度と同じ —生活を見つめ、考え、実践する子をめざして— (内容項目 (3)、(5) を中心として)	深谷市立上柴西小
33	平成14	南部B地区 (北足立北部地区)	主題：前年度と同じ —家族とのかかわりを大切にし、生活の自立を目指して実践する子—	上尾市立上尾小
34	平成15	東部地区 (埼玉地区)	主題：前年度と同じ —家族とのかかわりを大切にし、生活の自立を目指して実践する子—	蓮田市立黒浜西小
35	平成16	西部地区 (比企地区)	主題：前年度と同じ —自分と家族のかかわりを大切にし、自らの生活を創造する子—	嵐山町立菅谷小
36	平成17	南部A地区 (旧北足立南部地区)	主題：前年度と同じ —生活的な自立の基礎を培うために—	戸田市立戸田南小
37	平成18	さいたま市	主題：前年度と同じ —自分の生活の課題に気づき、よりよい家庭生活を目指して実践する子—	さいたま市立文蔵小
38	平成19	秩父・北部地区 (秩父地区)	新しい時代を切り拓く豊かな心と実践力を育てる家庭科教育 —食の大切さに気づき、進んで実践する子—	秩父市立南小
39	平成20	南部B地区 (北足立北部地区)	未来を創り出す豊かな心と確かな実践力を育む家庭科教育 —手作りのよさに気づき、生活に活用できる子—	伊奈町立小針北小
40	平成21	東部地区 (北埼玉地区)	主題：前年度と同じ —身に付けた知識・技能を活用して課題を解決し、生活をよりよくしようと考え実践する子—	羽生市立手子林小
41	平成22	西部地区 (入間地区)	主題：前年度と同じ —よりよい食生活を探究し、実践していく子—	坂戸市立浅羽野小
42	平成23	南部A地区 (北足立南部地区)	主題：前年度と同じ —自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成—	新座市立野火止小
43	平成24	東部地区(埼玉地区) 第29回関東甲信越地区大会	主題：前年度と同じ —自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成—	春日部市立武里西小
44	平成25	さいたま市	主題：前年度と同じ —自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成—	さいたま市立泰平小
45	平成26	秩父・北部地区 (児玉地区)	主題：自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成 —快適な生活への関心を高め、着方・住まい方を考え、工夫する能力を育てる家庭科学習—	本庄市立旭小
46	平成27	南部B地区 (北足立北部地区)	主題：前年度と同じ —食生活への関心を高め、環境に配慮した生活を工夫し、実践する力を育てる家庭科教育—	鴻巣市立吹上小
47	平成28	西部・比企地区	主題：前年度と同じ —食生活への関心を高め、学び合いにより基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用する児童の育成—	ときがわ町立明寛小
48	平成29	東部・北埼玉地区	主題：前年度と同じ —身近な消費生活と環境への関心を高め、関わり合い、学び合う中で主体的に生活を工夫する力を育てる家庭科学習—	行田市立埼玉小
49	平成30	さいたま市	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —衣生活に関心をもち、学び合う中で身に付けた知識及び技能を活用して、主体的に生活を工夫する児童の育成—	さいたま市立常盤北小
50	令和元	秩父・北部地区 (大里地区)	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —くまがやラグビー・オリパラプロジェクトで、生活をよりよくしようと工夫し実践できる児童の育成—	熊谷市立熊谷西小
51	令和2	南部A地区 (北足立南部地区)	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —家庭生活への関心を高め、人と関わりながらよりよい生活を創り出す児童の育成—	川口市立戸塚南小
52	令和3	南部A地区(北足立南部地区) 第37回関東甲信越地区大会	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成—	新座市立新堀小学校
53	令和4	西部・入間地区	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成—	坂戸市立南小学校
54	令和5	東部・埼玉地区	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成—	久喜市立栗橋南小学校
55	令和6	秩父・北部地区 (秩父地区)	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —生活の営みに係る見方・考え方を効果的にはたらかせる指導法の工夫—	秩父市立影森小学校

*埼玉県では家庭科指導担当者の指導力の向上をめざして研究指定を特定の学校とせず、研究指定地区という方式を取り入れ、地区の研究成果を会場校で授業を中心に発表してきた。

5 地区別授業研究会

—西部・入間—

- (1) 期日 令和7年2月6日(木)
- (2) 会場 日高市立武蔵台小・中学校
- (3) 研究主題
「よりよい家庭生活を目指し、学びを生かし、実践する児童の育成」
- (4) 題材名
「着方の工夫で快適に」5年
B「衣食住の生活」(4)「衣服の着用と手入れ」ア(ア)イ
- (5) 授業者 日高市立武蔵台小・中学校
教諭 毛利 優妃
指導者 熊谷市立妻沼西中学校
教頭 大山 方住 先生
- (6) 研究主題について
家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する態度を養うために、観察・実験などの実践的・体験的な活動を通して、主体的・対話的に学び、実感を伴った理解とそれを活用できる学習過程を工夫することで研究主題に迫りたいと考えた。
本題材は、6年生の「涼しい着方と衣服の手入れ」中学校における「衣服の手入れ」や高等学校における「第9節 服飾文化(2) 着装」の基本となる学習である。また、授業校は義務教育学校となって7年生以降(中学生)制服がないという特色もあり、児童が自ら考えて服装を選べるような「見方・考え方」を育成したいという、授業校職員の願いも託されている学習である。
- (7) 研究内容
 - ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫
 - ②持続可能な社会の構築の視点を意識させた授業の工夫
 - ③生活の営みに係る見方・考え方を働かせる観察・実験の工夫

—南部地区—

- (1) 期日 令和7年1月予定
- (2) 会場 伊奈町立小針小学校
- (3) 研究主題
「学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」
- (4) 題材名 「生活を支える物やお金」
5年
授業者 主幹教諭 石川万記子
指導者 新座市立第六中学校
校長 影山 葉子 先生
- (5) 研究主題設定等について
本題材は、小学校学習指導要領内容C(1)(2)を受けて設定したものである。物や金銭の使い方と買い物について、理解し、買い物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の計画的な使い方、身近な物の選び方や買い方、情報の収集・整理に関する知識及び技能を身につけさせ、身近な物の選び方・買い方を工夫させることをねらいとする。題材構成にあたっては、内容AやBと関連させた授業展開を予定している。
- (6) 研究内容
 - ① 生活の営みに係る見方・考え方を効果的にはたらかせる指導法の工夫
 - ② 持続可能な社会の構築に対応して、自立した消費者を育成するための指導の工夫
 - ③ 小・中のつながりを意識した学習指導の工夫

— 東部・三郷市 —

- (1) 期日 令和6年10月24日(木)
(2) 会場 三郷市立吹上小学校
(3) 研究主題
「豊かな心と実践力を育み
未来を拓く家庭科教育
～学びをつなぎ、家庭生活をよりよくし
ようと工夫し実践する児童の育成～」

- (4) 題材名
「整理・整とんで快適に」5年
授業者 三郷市立吹上小学校
教諭 小櫃 伸介
指導者 共栄大学
講師 小峯 由起子 先生

(5) 研究主題設定について
本題材では、「健康・快適・安全」及び「持続可能な社会の構築等」の視点を働かせ、「なぜ整理・整頓が必要なのか」という問いかけから、自分の生活を見つめ「みんなが気持ちよく快適に生活するためにどのように整理・整頓をすればよいのか」という課題を設定する。さらに、現在の自分の視点からだけでなく、将来の自分の社会的自立や家族との生活など、ライフステージの変化をイメージさせ、学習が自身の「健康・快適・安全」にどのようにかかわってくるのかまで考えさせる。

また、自身の物の扱い方を振り返り、3Rに「リフューズ(受け取らない)」「リペア(修理する)」を加えた5Rの考え方に触れ、環境に配慮した物の扱い方の重要性について理解を深めていく。

児童一人一人が学習したことを生かして、現在はもちろん未来に向けても家族が快適に生活できるように進んで身の回りの整理・整頓に取り組んでいこうとする力を育む授業展開とした。

- (6) 研究内容
①個々の生活環境の中で行える課題解決を大切に学習過程の工夫
②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価の工夫
③個に応じた学びを支えるICTの活用

—さいたま市—

- (1) 期日 令和6年11月21日(木)
(2) 会場 さいたま市立西原小学校
(3) 研究主題
「学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」

- (4) 題材名
「こんだてを工夫して」
授業者 さいたま市立西原小学校
教諭 塩澤 さとみ
指導者 さいたま市教育委員会
教育課程指導課 主任指導主事
小林 由美恵 先生

(5) 研究主題等について
本題材は、小学校学習指導要領内容B(1)、(2)、(3)及びCの内容を受けて設定したものである。プレ授業では、小学校家庭科の目標(2)を実現するために「問題を見いだして課題を設定する」学習過程を充実させる場面として、バーチャルバイキング給食を通して自分の問題点に気付くとともに、1食分の献立をどのように立てていきたいかという「ねがい」を共有する授業展開とした。授業研究会では、各自が設定した課題(ねがい)に対し、習得した知識・技能を使って家族の昼食の献立を考え、友達と協働し考えを深めたのち、達成状況を自己評価する授業展開とした。

- (6) 研究内容
①実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫
②主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の工夫
③児童が学びを自覚し、成長を実感する評価の工夫

[本研究協議会に係るプレ授業研究会]

- ①期日 令和6年10月24日(木)
②会場 さいたま市立河合小学校
③授業者 教諭 盛 聖子

6 各部活動報告

<研修部>

研修部の主な活動は、「各研修会の計画・準備・運営」と「研究集録第55号(指定地区研究の部)の作成」である。

(1) 総会(第1回役員研修会)

①期日 令和6年6月14日(金)

②会場 With you さいたま

③内容

令和5年度事業報告・会計報告

令和6年度事業計画・予算案

講演会「これからの家庭科教育について」

講師: 笹嶋 京子 指導主事(県教育局
市町村支援部義務教育指導課)

(2) 夏季研修会(第2回役員研修会)

①期日 令和6年8月9日(金)

②会場 With you さいたま

③内容 各部会の活動経過報告

指定地区研究発表会について
講演会「これからの家庭科教育に期待すること～主体的・対話的で深い学びを実現するために～」

講師: 山崎 元美 指導主事
(県立総合教育センター)

(3) 指定地区研究発表会

①期日 令和6年11月6日(水)

②会場 秩父市立影森小学校

③公開授業

5年 授業者 宮下 玲 教諭
「食べて元気! ご飯とみそ汁」

④記念講演

演題 「小学校家庭科における資質・能力の育成について」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官

熊谷 有紀子 先生

<広報部>

広報部では、1点目として、研究集録を発行すること。2点目としては、次年度に向けて役員名簿を作成すること。これらの活動を通し、埼玉県下における家庭科教育の充実と発展をたくさんの先生方と共有していく。

(1) 令和6年度研究集録第55号

前半部分は、北部で実施される指定地区別授業発表の紀要となる。よって、11月の完成を目標に夏季研修で打ち合わせを行い、原稿収集、修正等を行った。製本は、他部署が担っているため、遺漏のないよう配慮しながら進めた。

《打ち合わせ》

8月6日 夏季研修にて

原稿依頼含む

9月末日 広報部原稿集約

校閲

10月初め 会長に原稿送付

最終確認・入稿

(2) 令和7年度 役員名簿

埼玉県小学校家庭科教育研究会役員のスムーズな連携と今後の家庭科教育のつながりを深めるためにも、各地区の協力を得ながら作成していく。

昨今、DX化が進み研究等の広がりも牽引している。そこで、家庭科教育のさらなる発展を目指し、本研究会でも活用と周知に努めるとともに、役員同士がつながり高め合える仲間となるよう、名簿作成も担っていきたいと考える。

昨年の反省点として、googleを活用した作成を行ったが、各地区の中心者が異動してしまうと次年度への引き継ぎの事務作業が滞ってしまうため、よりよい方法を模索しながら、進めていく。

〈調査研究部〉

1 全国小学校家庭科教育研究会調査

本調査は「全国調査のまとめ」に集約され、参考資料として活用される。

(1) 調査の内容：同程度を実施予定

・調査Ⅰ（児童用）

第5・6学年児童の家庭科学習及び家庭生活に関する調査

・調査Ⅱ（教師用）

家庭科の学習指導に関する調査

・調査Ⅲ（教師用）

家庭科の指導状況に関する調査

・調査Ⅳ（教師用）

家庭科室の状況と教材の整備等に関する調査

(2) 調査の方法

県内4地区の調査研究部員に調査・集計を依頼し、部長が取りまとめた。県内で必要な数は以下の通りである。

・調査Ⅰ（児童用）各学年100名

・調査Ⅱ～Ⅳ（教師用）10名

2 調査研究部会

(1) 第1回 6月14日（金）

WithYou さいたま

・今後の活動計画

(2) 第2回 8月9日（金）

WithYou さいたま

・調査方法の確認

〈庶務部〉

埼玉県小学校家庭科教育研究会における研修活動の充実・発展を期して計画の立案等を担当している。

各部と連携を図りながら、以下のような活動を行っている。

(1) 本部役員会・第1回役員研修会

（6月14日・With you さいたま）

講演「これからの家庭科教育について」

指導者：埼玉県教育局市町村支援部

義務教育指導課 笹島 京子指導主事

(2) 夏季研修会・各部研修会・専門委員会

第2回役員研修会

（8月9日・With you さいたま）

講演「これからの家庭科教育に期待すること」

指導者：埼玉県立総合教育センター

山崎 元美指導主事

(3) 第55回埼玉県家庭科教育研究協議会

本年度の指定地区は、北部（秩父）地区で、11月6日、秩父市立影森小学校を会場として実施予定である。

参加者は、来賓・指導者を含め100名とする。

研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」～生活の営みに係る見方・考え方を効果的にはたらかせる指導法の工夫～とし、実践研究を発表する。

※実施委員長と協力し、運営細案を作成する。

(4) 本部役員会・第3回役員研修会

※2月開催予定

※各会の集会許可申請、派遣依頼文書の作成・配付、運営細案の作成、当日の運営補助など

7 専門委員会報告

本委員会は、埼玉県小学校家庭科教育研究会における専門的な研究を担当している。県内各地区代表者13名で構成され、家庭科教育の一層の充実・発展と家庭科担当の資質向上を目指し研究を重ねている。

平成29年告示の学習指導要領は、約3年間の新型コロナウイルスの感染拡大防止による指導の制約があったものの、残り数年を残す充実期となっている。これまで、主体的・対話的で深い学びの実現のため、本県においてもそれぞれの地域で学習過程や年間指導計画の工夫・改善がされてきた。

今年度は、毎年県内4地区で行われている地区別授業研究会（今年度は南部、北部、西部、さいたま市の4地区 ※東部は指定地区研究協議会）の授業について抜粋したものを事例研究として報告書にまとめ、HP上でデータ配信することにした。

(1) これまでの研究内容

○平成20年度から22年度

平成20年度「B 日常の食事と調理の基礎」・平成21年度「A 家庭生活と家族」「D身近な消費生活と環境」・平成22年度「C 快適な衣服と住まい」

以上の内容の『データ集』と『すぐに活用できる資料』（CD含む）の作成・配布

○平成23年度・24年度

平成20年度から3年間にわたり、取り組んできたデータ集をまとめ、有効に活用できるように資料の編集の工夫をし、『今すぐ役立つ資料集』の作成をした。（第29回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会埼玉大会で配付）

○平成25年度から平成27年度

平成25年度「B 日常の食事と調理の基礎」・平成26年度「C 快適な衣服と住まい」・平成27年度「A 家庭生活と家族」

平成25年度から平成27年度の三年間では、学習指導案例とワークシートを作成し、

「今すぐ役立つアイデア集」PART1～PART3として研究報告書とした。

○平成28年度

「身近な消費生活と環境」

特に内容Dについて、内容Bと内容Cとの関連を組み合わせ、5年生4事例、6年生2事例の計6事例の指導案・ワークシート等を作成し、『今すぐ役立つアイデア集PART4』と併せてCDも作成し配付した。平成20年度から平成28年度において、4つの内容全ての領域『アイデア集』とCDを作成した。

○平成29年度

平成14年度に埼玉県教育局より「安全指導の手引き」が県内各学校に配布され、現在は県教育局のHPよりダウンロードし、活用することができる。学習指導要領改訂に向けて、さらに安全指導の充実を図るために、「安全指導の手引き」の活用を含め、見直し、工夫・改善を行った。

○平成30年度

前年度の「安全の手引き」の見直し、改善を基に、「衣生活」「食生活」「住生活」「家庭科室経営」の4つの内容にまとめ、「新安全指導の手引き」を完成させ、配付した。

○令和元～4年度の研究内容

新たな内容としてA（1）アの1事例、A（3）イの3事例、（4）家族・家庭生活についての課題と実践の3事例、B（2）ア（エ）題材指定の1事例の研究を進め、9事例の指導案を作成、改善してHP上でデータ配信。

(2) 令和6年度の研究内容

かつて夏季研修会で発表されてきた地区別授業研究会の授業実践報告を夏季研修会では行わず、令和6年度は各地区の授業実践例としてまとめ、HP上でデータ配信する。今後も児童が実践的・体験的活動を通し、よりよい生活の実現に向け、生活を工夫し創造しようとする態度を育成するとともに、家庭科教育の一層の発展、家庭科担当の資質向上を目指して研究を重ね、情報発信していく。

8 令和6年度全国大会

第61回全国小学校家庭科教育研究大会
三重大会

- ・会期 令和6年11月22日
- ・会場 亀山市文化会館
- ・大会主題
「豊かな心と実践力を育み、
未来を拓く家庭科教育」
- ・三重大会副主題
「ともに生きる生活者の育成をめざして」
- ・公開授業
〈亀山市立亀山西小学校〉

公開授業1

- 5年1組 暖かく快適に過ごす着方
- 5年2組 生活を支えるお金と物
- 6年2組 共に生きる地域での生活

公開授業2

- 5年3組 暖かく快適に過ごす着方
- 6年1組 共に生きる地域での生活
- 6年3組 共に生きる地域での生活

授業録画放映・授業者解説・協議

- ・亀山市立川崎小学校における家庭科実践報告
- ・三重大学教育学部附属小学校令和5年度6年生「プログラミング思考で推しの一食分調理にチャレンジ」

〈全国小学校家庭科教育研究大会の歩み〉

年度	回	開催県・市
元	26	東海北陸・愛知
2	27	中国四国
3	28	九州
5	30	北海道東北
6	31	近畿
7	32	関東甲信越・栃木
8	33	東北陸
9	34	中国・四国
10	35	九州
11	36	東京
12	37	北海道東北
13	38	近畿
14	39	関東甲信越・茨城
15	40	東海・北陸
16	41	中国四国・島根
17	42	九州・長崎
18	43	東京
19	44	北海道
20	45	大阪

21	46	新潟
22	47	福井
23	48	高知
24	49	佐賀
25	50	東京
26	51	秋田
27	52	和歌山
28	53	山梨
29	54	石川
30	55	岡山
元	56	熊本
2	57	東京〈誌上発表・映像配信〉
3	58	宮城〈映像配信〉
4	59	京都
5	60	神奈川
6	61	三重

※参考

〈関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会の歩み〉

年度	回	開催県・市	備考
元	7	千葉	
2	8	群馬	
3	9	新潟	
4	10	茨城	
5	11	神奈川	
6	12	山梨	
7	13	栃木	第32回全国大会
8	14	横浜	
9	15	長野	
10	16	千葉	
11	17	埼玉	
12	18	群馬	
13	19	新潟	
14	20	茨城	第39回全国大会
15	21	山梨	
16	22	栃木	
17	23	神奈川	
18	24	長野	
19	25	千葉	
21	26	新潟	第46回全国大会
22	27	横浜	
23	28	茨城	
24	29	埼玉	
26	30	群馬	
27	31	栃木	
28	32	山梨	第53回全国大会
29	33	長野	
30	34	千葉	
元	35	新潟	
2	36	茨城	〈誌上発表〉
3	37	埼玉	〈オンライン〉
4	38	群馬	〈オンライン〉
5	39	神奈川	
6	40	栃木	